

327
1047



始



第二回

品評會記念帖

大日本蠶絲會渡島支會

327-1047

緒言

大日本蠶絲會德島支會第一回品評會を開催してより
 茲に五週年此間本縣の蠶絲業は各種の事情に依り幾
 多の變遷ありしに雖、晚近漸く堅實なる發達の緒に
 就き品質數量共に漸次昂上の氣運に向ひ前途頗る好
 望なるものあり殊に蠶の品種改良に於ては斯業界革
 新の推移に先驅せむとするの概あり、此秋に當り品
 評會を開設して時代の變遷に斯業界現時の趨向を察
 知するに足る各種の生産品を一堂の下に蒐め彼此相
 較ぶるは最も機を得たる舉なりと爲し、茲に第二回
 品評會開設の計畫を樹て二月二十八日商議員會を開
 きて規定を制定し本會に認下申請の手續を経たり爾
 來郡市委員部其他關係者各位の協力援助を得て出品
 の獎勵に努めたる結果其出品点数二千四百四十四点
 の多きに達し廣く一道一府二十二縣に亘り其精彩を
 蒐集し得たり

大正相 2
 6. 10.
 内交

乃ち大正五年十月十六日より同二十日に至る五日間
 麻植郡川島町同郡議事堂に於て開會したるに人氣頗
 る好評にして會期中蝟集せる觀覽者の數實に一万八
 千六名の多きを算し本縣品評會空前の盛況を呈せり

特に此機會に於て製絲工女競技會を開催し製絲技術の獎勵に資せり而して之れが効果は須く他日の實績に依りて之れを窺はんも斯業界改善發達に資するもの蓋し鮮少ならざるべし

以下今回品評會の施設之れが成績の概要を收め加ふるに蠶業講演筆記を附し以て斯業關係者の參考に資し併せて他日の考證に之れを胎さんごす



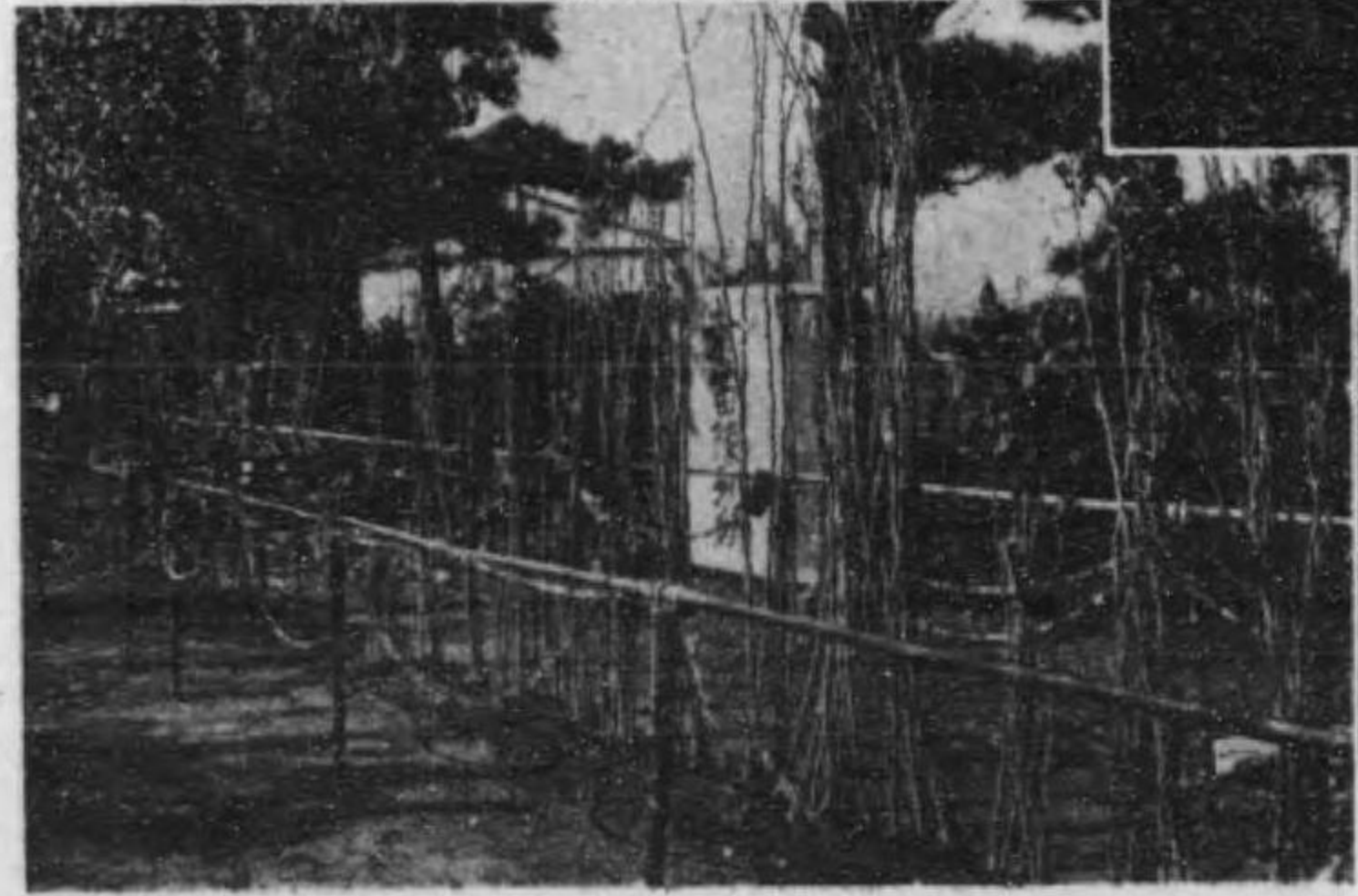
支會長



式場



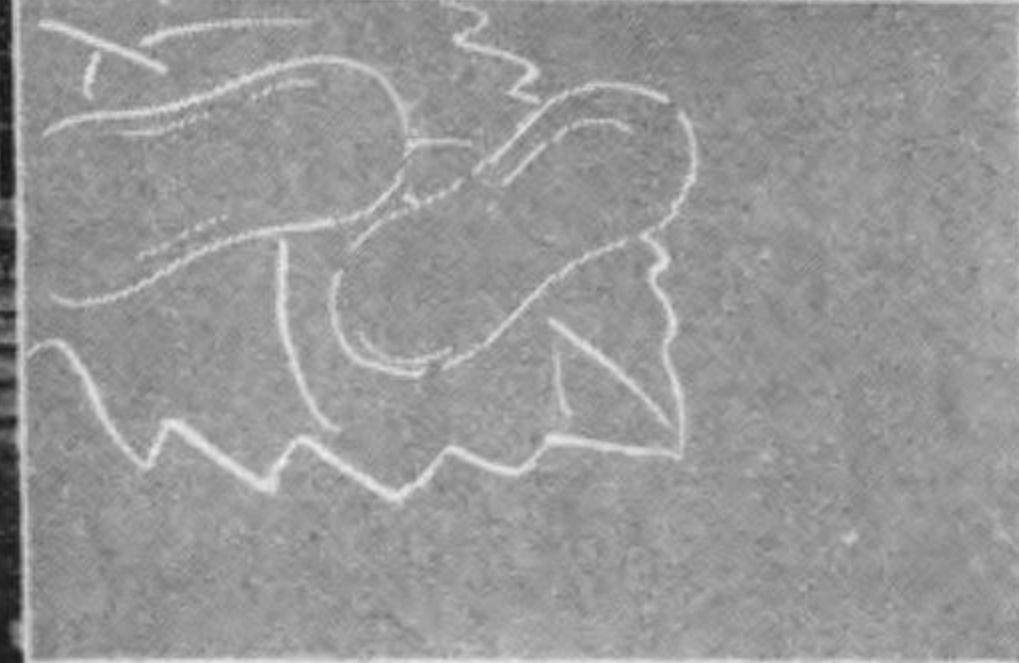
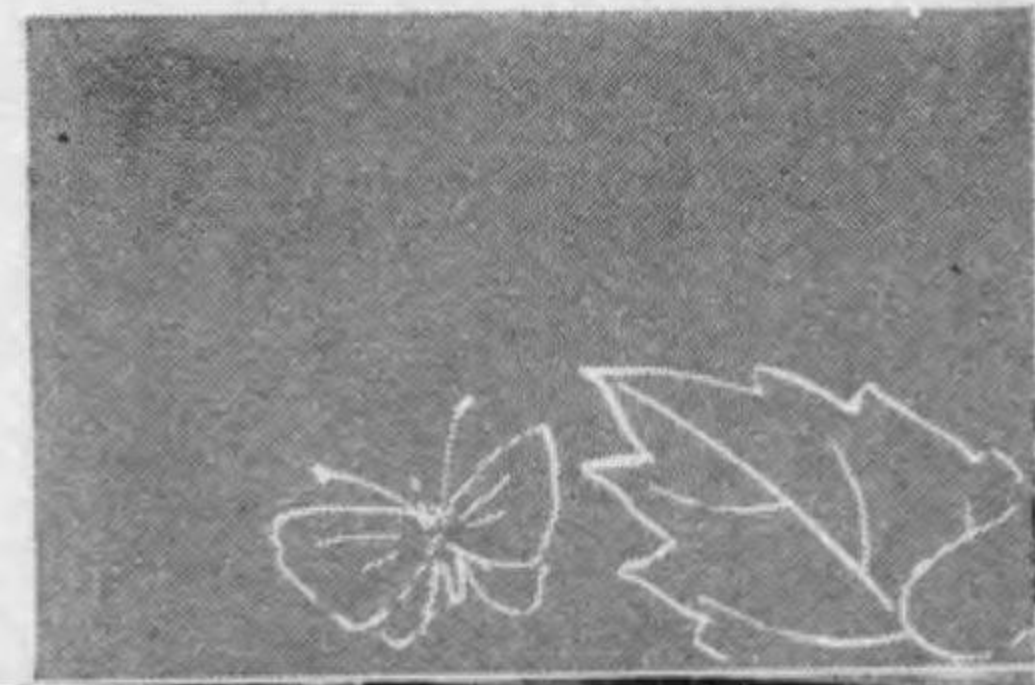
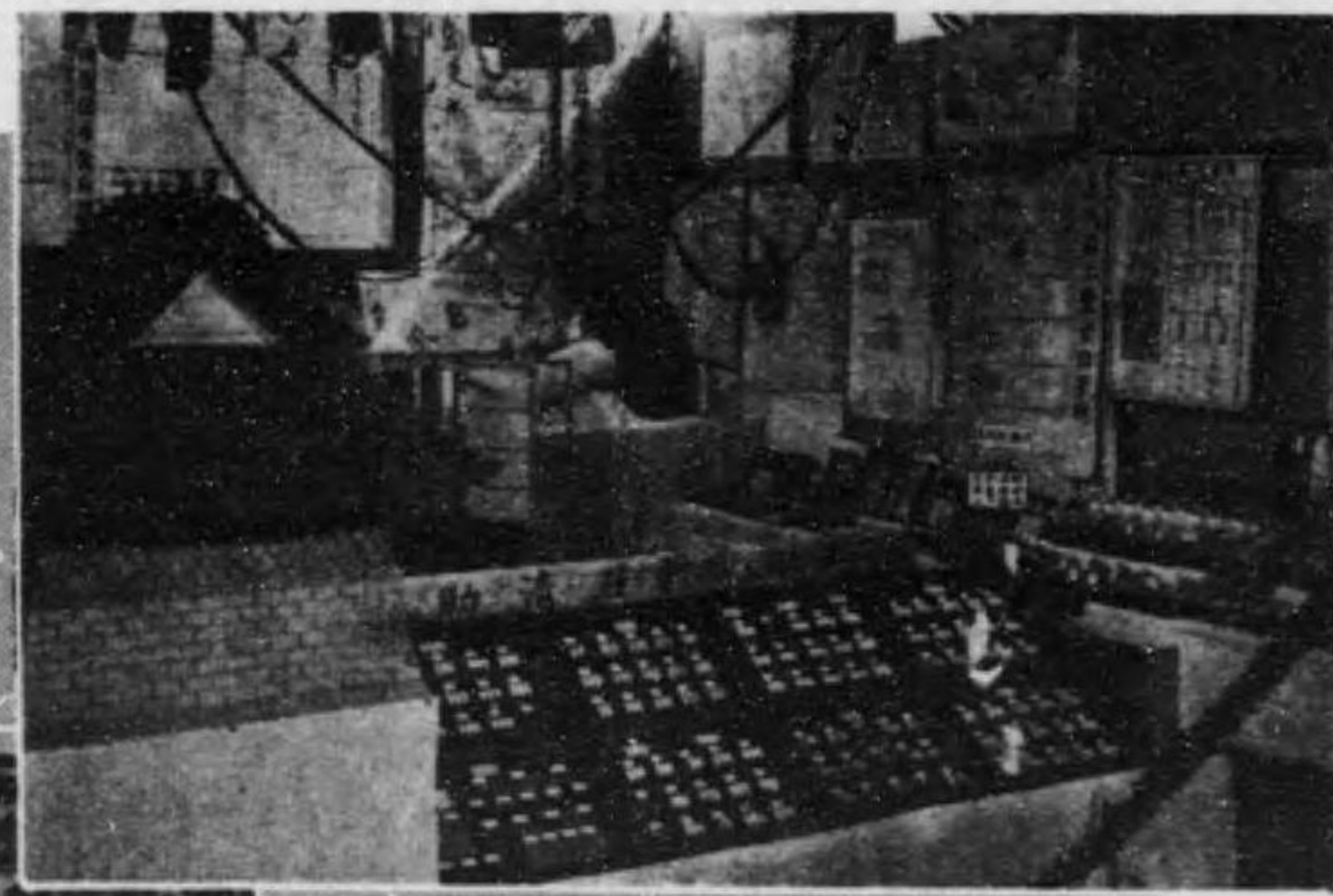
會場



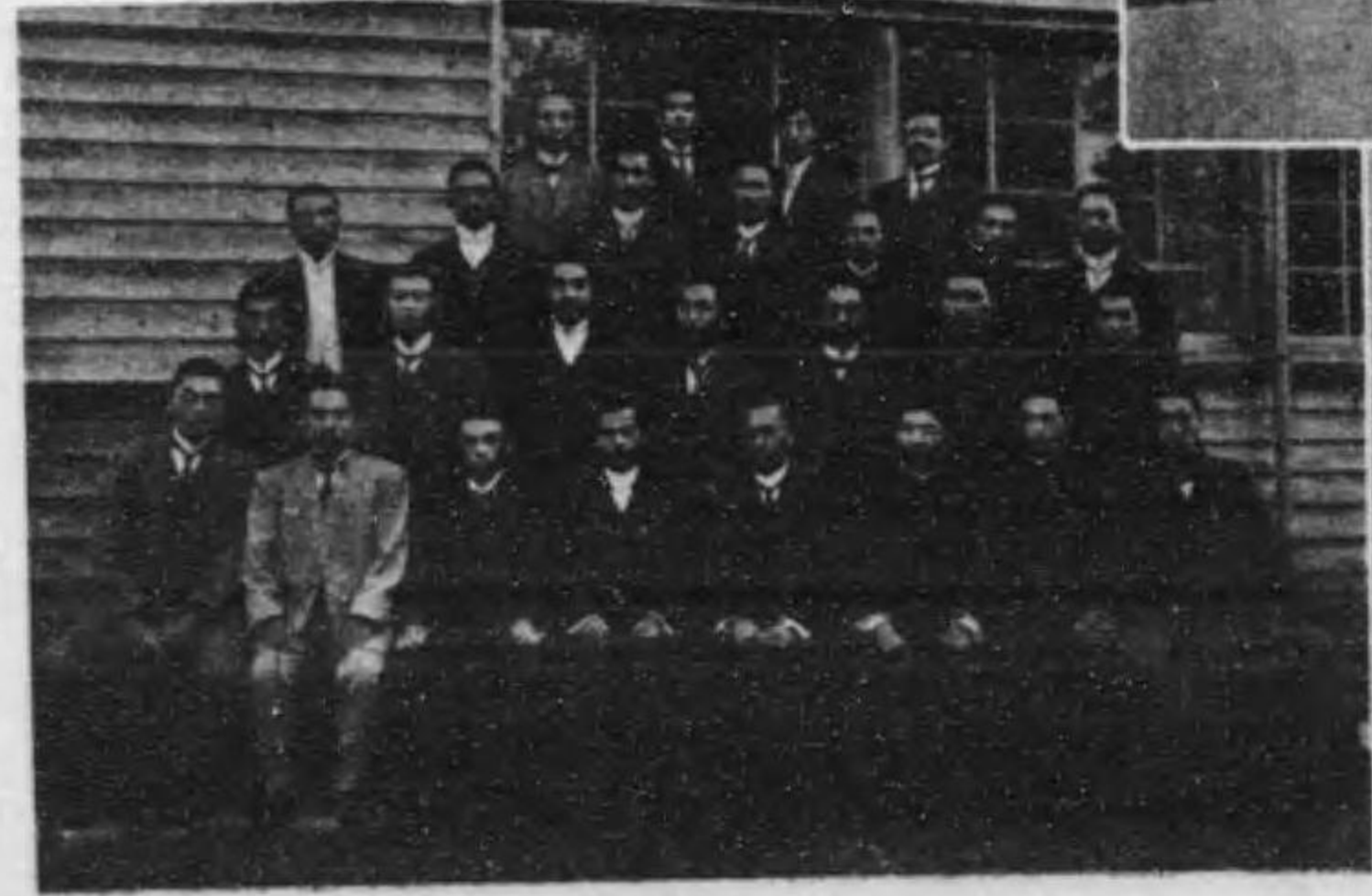
出品桑苗



參
考
品



審
查
委
員
並
事
務
委
員

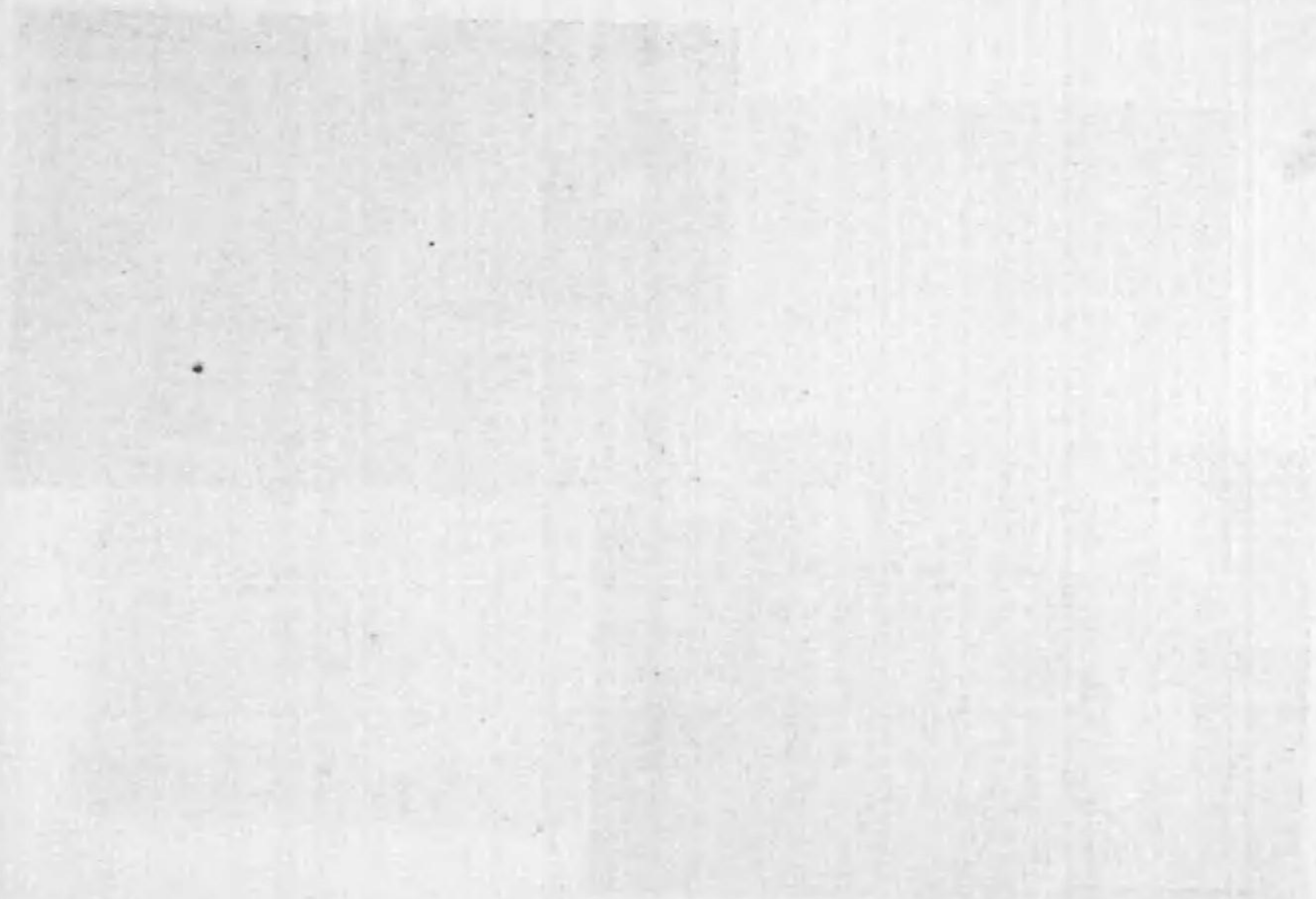
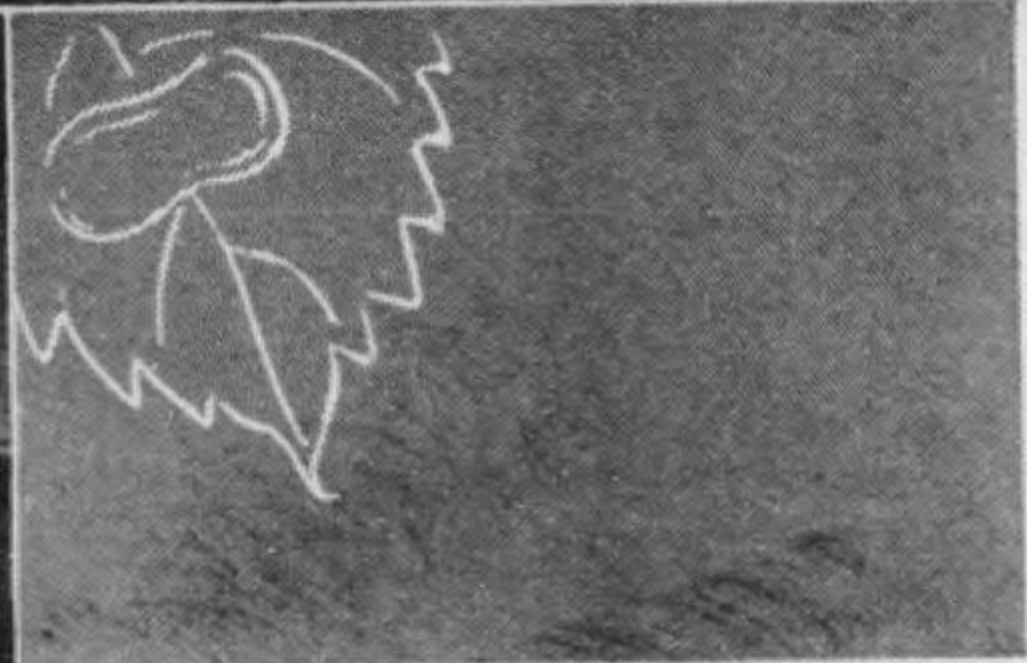


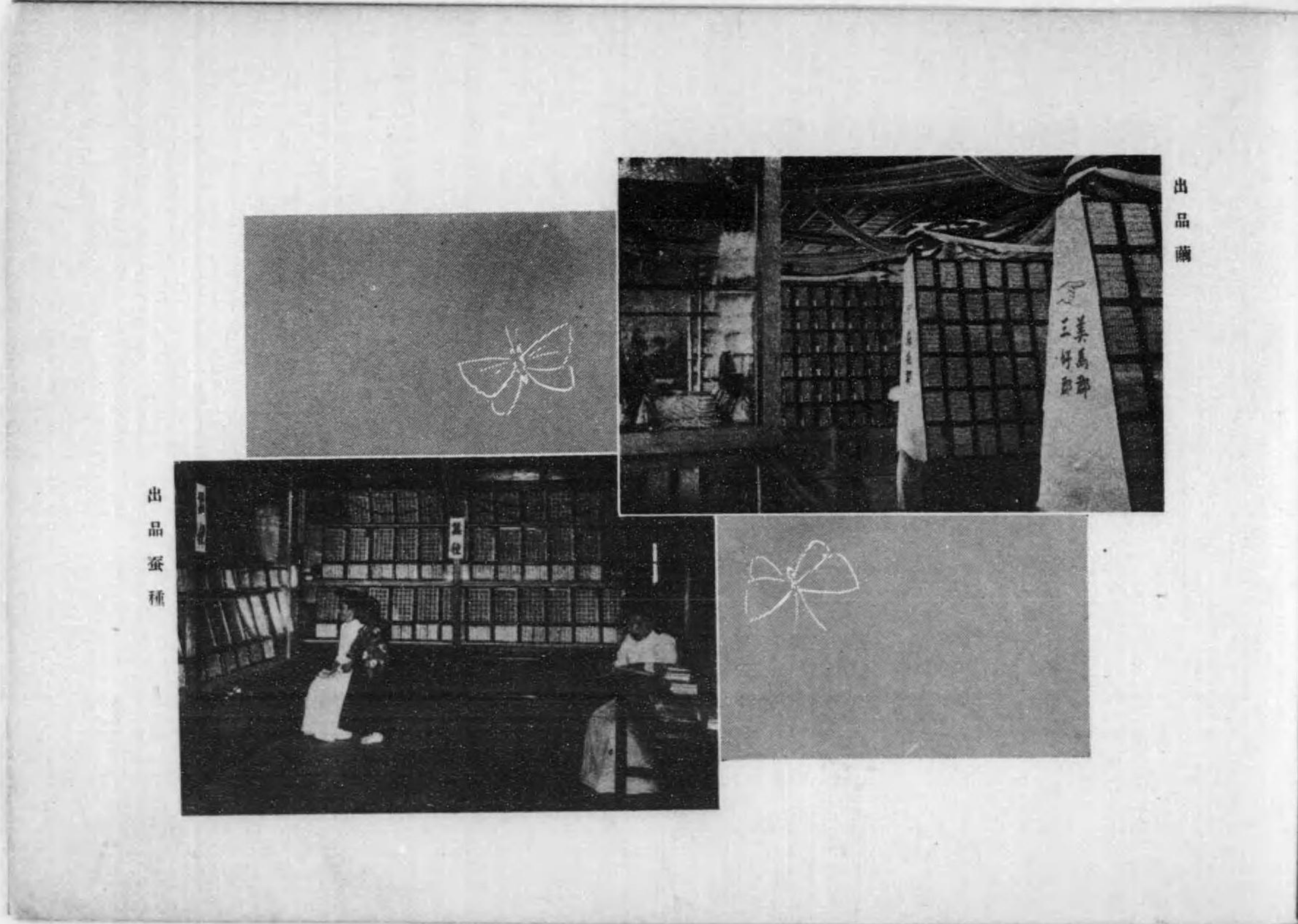


器械審査



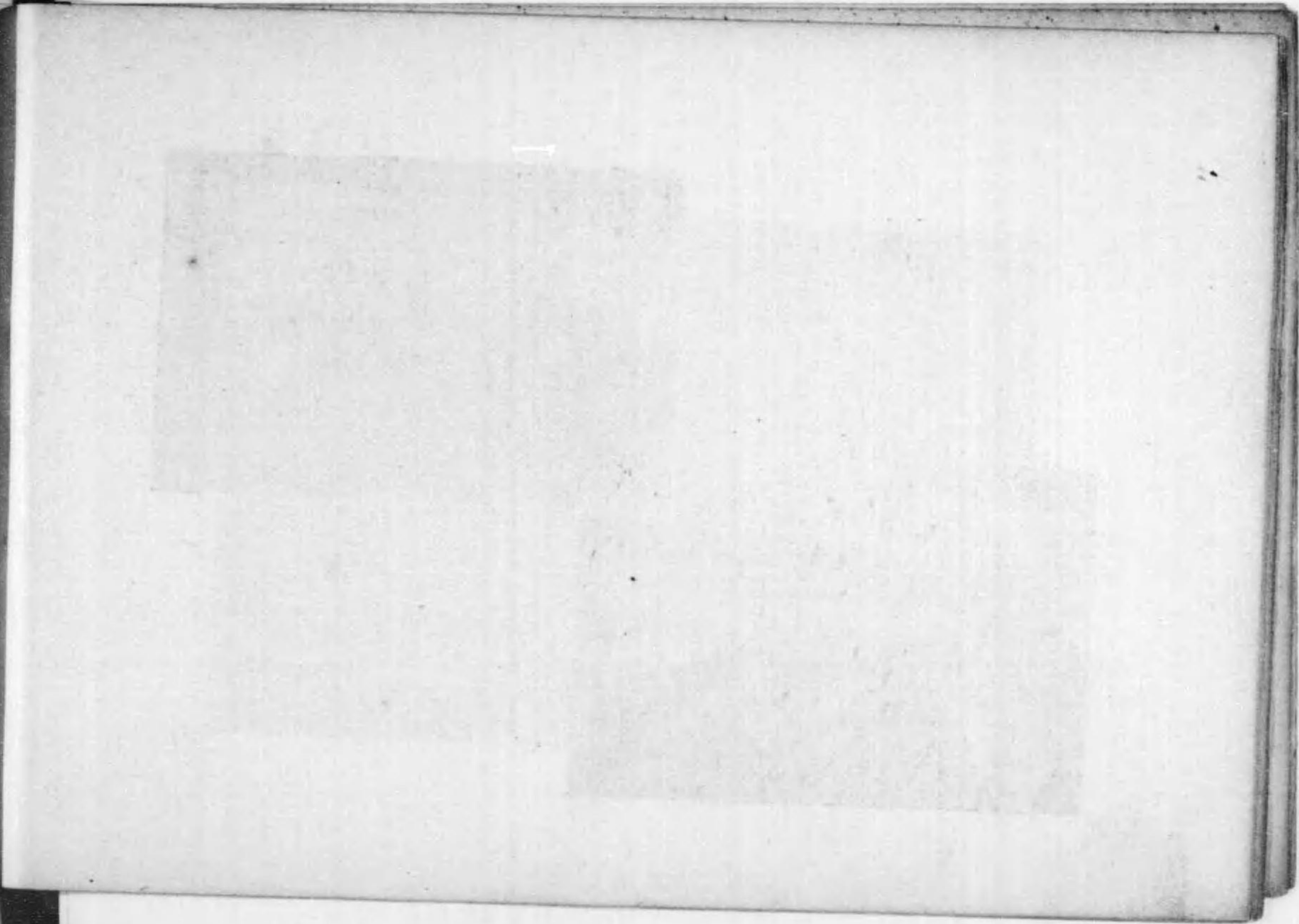
肉眼審査



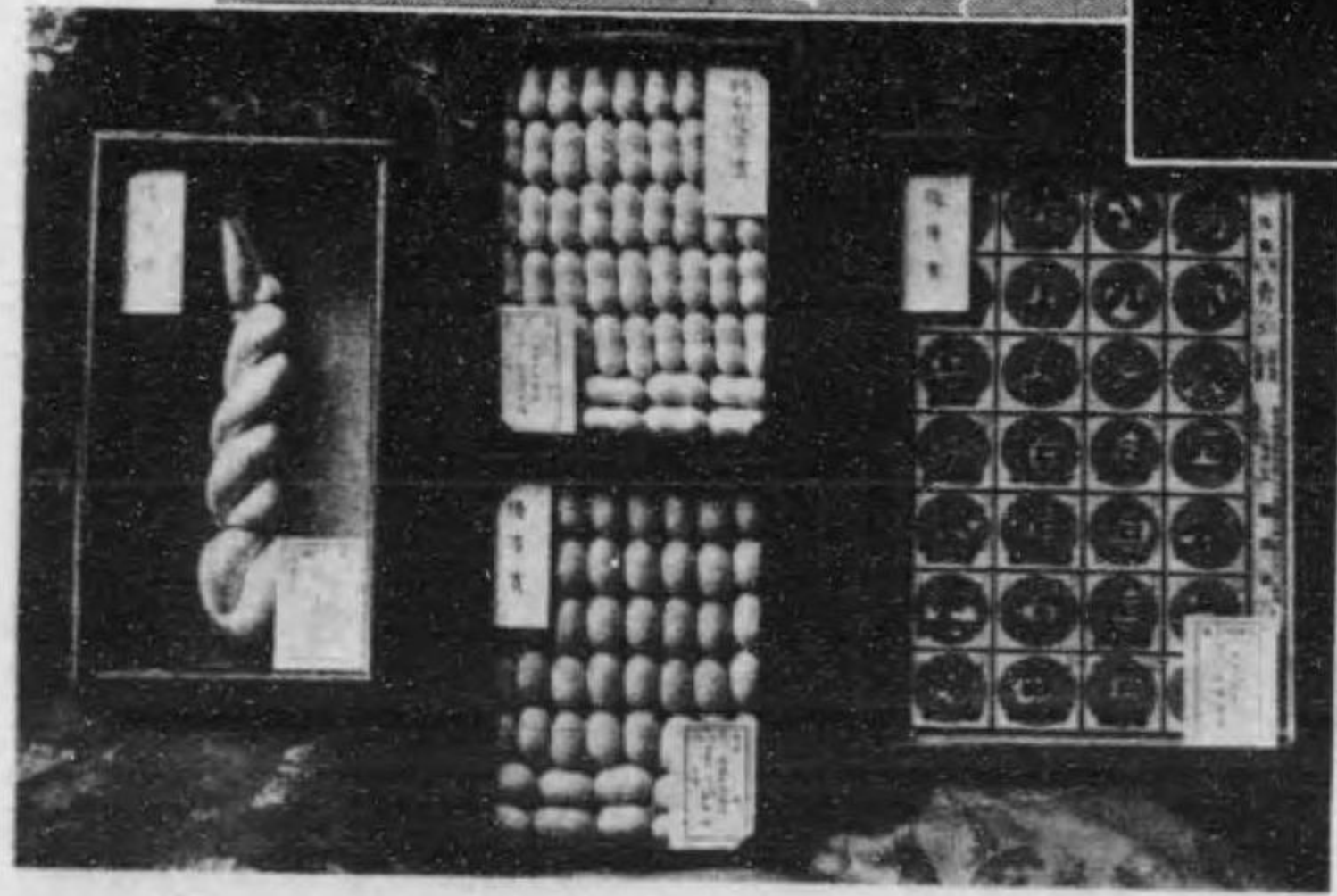
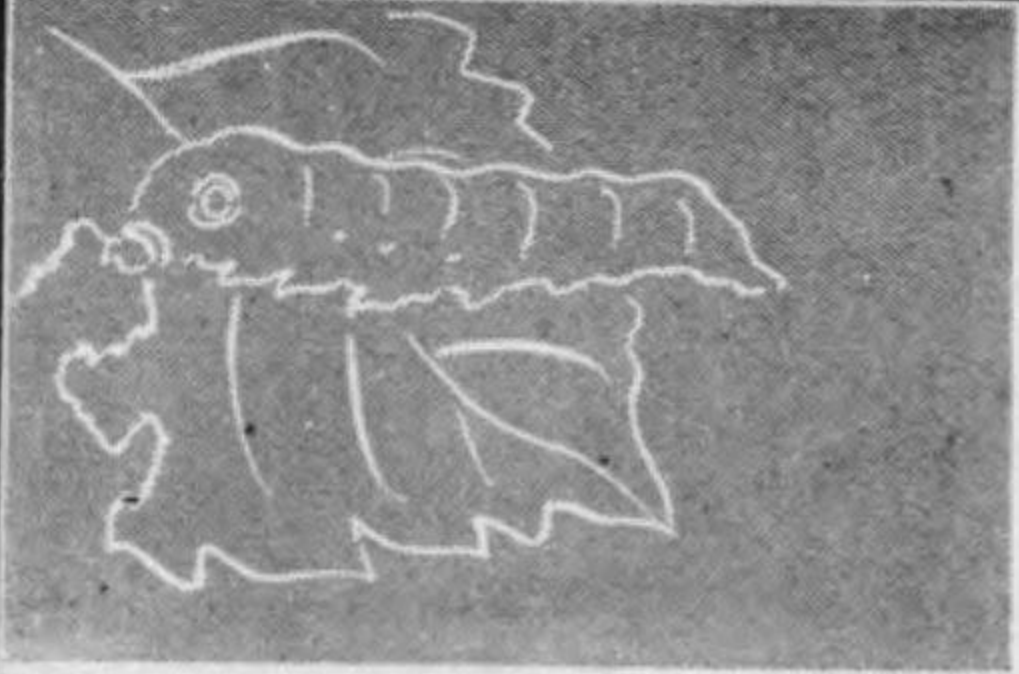
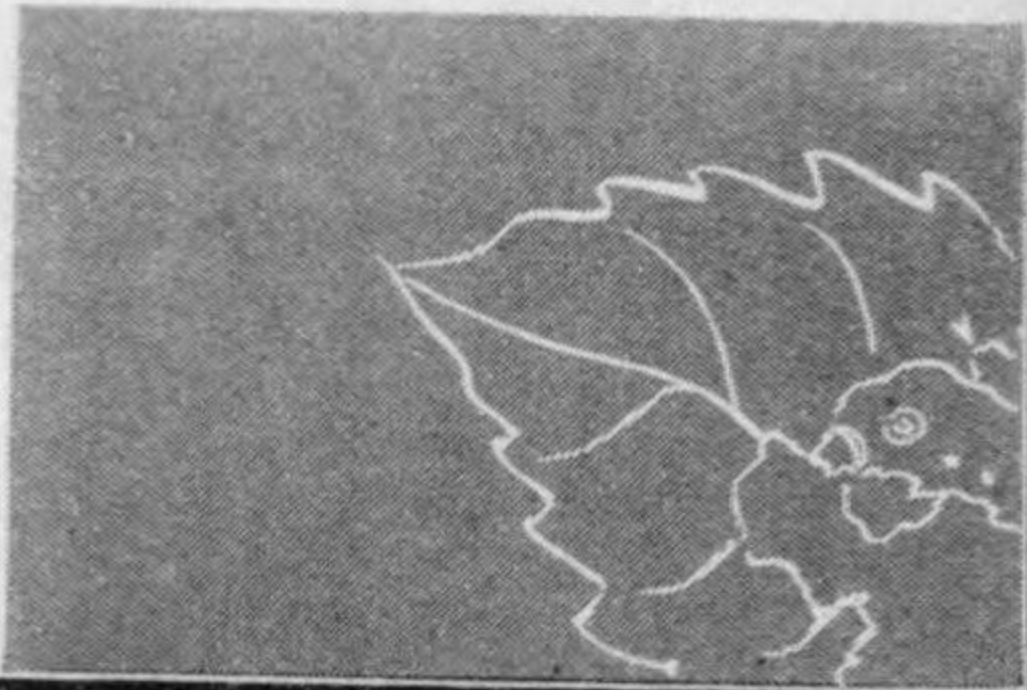
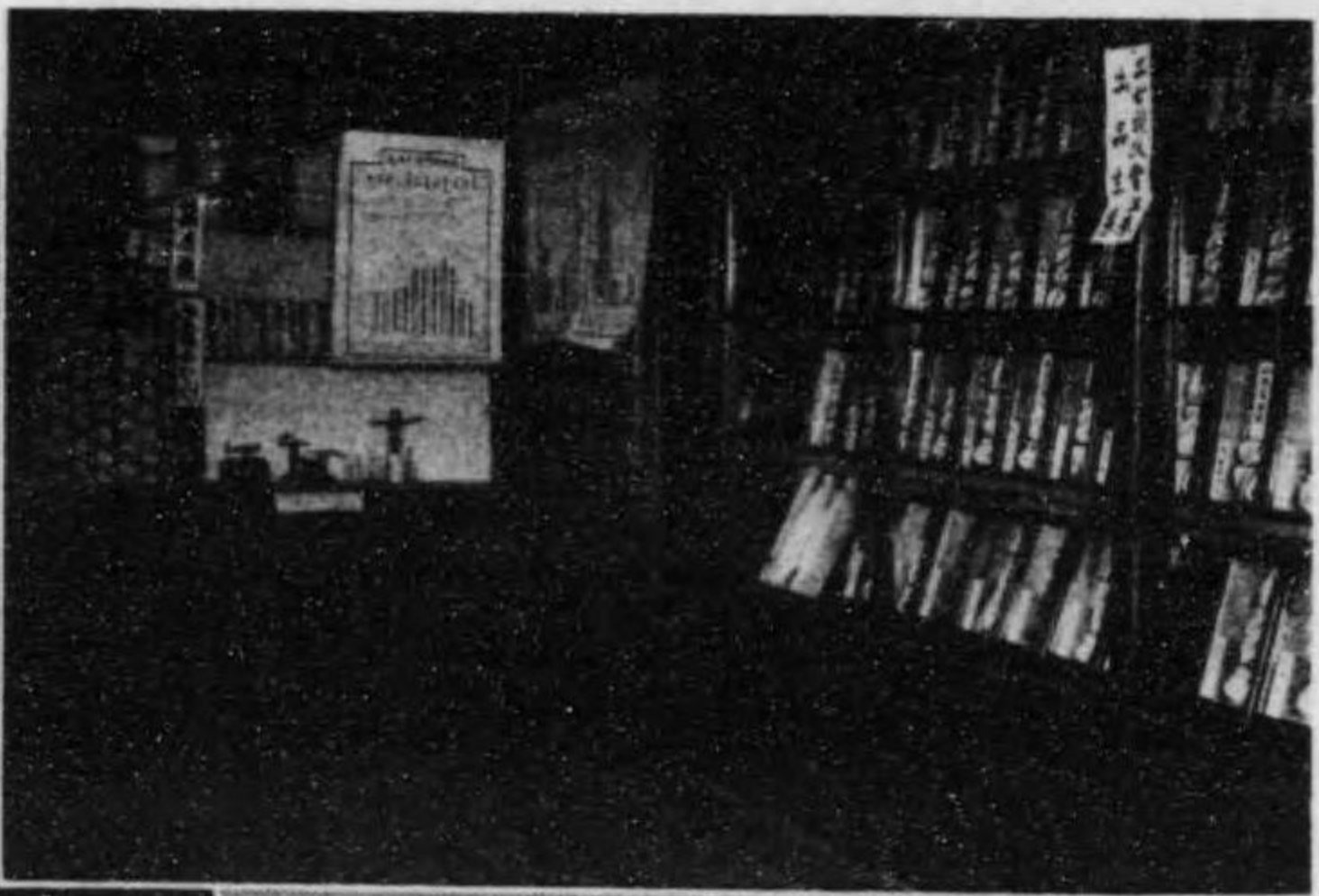


出品 繭

出品 蚕種



出品生絲並器具類



優等品

大日本蠶絲會德島支會第二回品評會記念帳

目次

第一、	規 則	一
第二、	役 員	五
第三、	出 品	七
第四、	經 費	一六
第五、	審 查	一七
第七、	儀 式	四一
第八、	受賞入格	五四
第九、	協贊事業及特別寄附者芳名	八七
第十、	養蠶組合大會	八九
第十一、	蠶業講演會	九〇

大日本蠶絲會德島支會第二回品評會規程

目次

第一條	蠶絲業ノ改良發達ニ資セントシテ	第一
第二條	品評會事務所ハ大日本蠶絲會德島支會(德島縣廳)内ニ置ク但シ開設前ニ於テ開設地ニ之ヲ移轉スルモノトス	二
第三條	出品人ハ大日本蠶絲會員又ハ本縣内ニ於テ蠶絲業ニ従事スルモノニ限ル	三
第四條	出品物ハ總テ大正五年中自己ノ製産シタルモノニ限ル	四
第五條	出品物ノ種類及數量ハ左ノ如シ	五
第六條	蠶種同一枚但製造ニ供用シタル出殻繭五合以上添付ヲ要ス	六
第七條	蠶具一種ニ付一個若クハ一組以上	七
第八條	蠶絲業ニ關スル經營方法成績及圖案一通	八
第九條	出品人ハ一種類毎ニ左記様式ノ出品目錄ヲ添ヘ大正五年九月十五日ヨリ同月三十日迄ノ間ニ於テ出品物ト共ニ品評會事務所(開設地)ニ送付スベシ	九
第十條	但シ桑苗ノ出品ハ大正五年十月十日迄トス	十
第十一條	期限後ニ到着シタル出品物ニ對シテハ審査ヲ行ハザルコトアルベシ	十一
第十二條	出品物ニ對シテ解説書ヲ付セントスル者ハ出品目錄ニ添付スベシ	十二
第十三條	出品物ノ荷造及遞送ノ費用ハ出品人ノ負擔トス	十三
第十四條	出品物ハ參考品ヲ除キ品評會ノ費用ヲ補フタメ當支會ニ寄付スルモノトス但シ蠶具ニ限リ出品ノ返戻ヲ請ハントスル者ハ出品ト同時ニ其評定價額ノ半額以上ニ該當スル金額ヲ寄付シ其旨申出ツベシ	十四

第一 規 則

大日本蠶絲會德島支會第二回品評會規程

- 第一條 蠶絲業ノ改良發達ニ資セントシテ大正五年十月十六日ヨリ五日間德島縣麻植郡川島町ニ於テ第二回品評會ヲ開設ス
- 第二條 品評會事務所ハ大日本蠶絲會德島支會(德島縣廳)内ニ置ク但シ開設前ニ於テ開設地ニ之ヲ移轉スルモノトス
- 第三條 出品人ハ大日本蠶絲會員又ハ本縣内ニ於テ蠶絲業ニ従事スルモノニ限ル
- 第四條 出品物ハ總テ大正五年中自己ノ製産シタルモノニ限ル
- 第五條 出品物ノ種類及數量ハ左ノ如シ
 - 第一種 繭一種ニ付五合以上
 - 第二種 蠶種同一枚但製造ニ供用シタル出殻繭五合以上添付ヲ要ス
 - 第三種 生絲玉絲一捻十八匁以上
 - 第四種 真綿一束二十匁以上
 - 第五種 桑苗一種ニ付十本以上
 - 第六種 蠶具一種ニ付一個若クハ一組以上
 - 第七種 蠶絲業ニ關スル經營方法成績及圖案一通
 - 第八種 參考品適宜
- 第六條 出品人ハ一種類毎ニ左記様式ノ出品目錄ヲ添ヘ大正五年九月十五日ヨリ同月三十日迄ノ間ニ於テ出品物ト共ニ品評會事務所(開設地)ニ送付スベシ
- 第七條 但シ桑苗ノ出品ハ大正五年十月十日迄トス
- 第八條 期限後ニ到着シタル出品物ニ對シテハ審査ヲ行ハザルコトアルベシ
- 第九條 出品物ニ對シテ解説書ヲ付セントスル者ハ出品目錄ニ添付スベシ
- 第十條 出品物ノ荷造及遞送ノ費用ハ出品人ノ負擔トス
- 第十一條 出品物ハ參考品ヲ除キ品評會ノ費用ヲ補フタメ當支會ニ寄付スルモノトス但シ蠶具ニ限リ出品ノ返戻ヲ請ハントスル者ハ出品ト同時ニ其評定價額ノ半額以上ニ該當スル金額ヲ寄付シ其旨申出ツベシ



第九條 出品物ハ参考品ヲ除ク外總テ審査ニ附シ其優良ナルモノニハ左記等級ニ依リ褒賞ヲ授與ス
但シ参考品ニシテ有益ト認メタルモノニハ謝狀ヲ贈與スルコトアルヘシ

特別優等賞
優等賞
一等賞
二等賞
三等賞
褒賞

第十條 特別優等賞及優等賞ハ總裁宮殿下ニ一等賞以下ハ本縣知事ニ褒賞授與ノ稟請ヲ爲スモノトス
第十一條 一人ニシテ數点以上ヲ出品シ二点以上賞格ニ入りタルモノアルトキハ其最優品ニ限リ授賞シ他ハ褒賞狀ノミヲ授與スルモノトス

第十二條 審査委員長ハ大日本蠶絲會ニ派遣ヲ請ヒ審査員ハ支會長之ヲ囑託ス
第十三條 出品人ハ審査若シクハ褒賞ノ授與ニ關シ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ス
第十四條 出品物ハ相當ノ保護ヲ爲スト雖モ不可抗力ニ依ル損害ハ其ノ責ニ任セス

第十五條 開會中ハ毎日午前九時ヨリ午後四時迄公衆ノ觀覽ヲ許ス但シ都合ニ依リ之ヲ伸縮シ又ハ觀覽若クハ入場ヲ停止スルコトアルヘシ

出品目録

種別	品名(名稱)	數量	價格	備考
----	--------	----	----	----

右出品候也
大正 年 月 日

住所 大日本蠶絲會會員 氏 名
大日本蠶絲會德島支會第二回品評會事務所御中

第二回品評會事務規程

第一條 本會事務處理ノ爲左ノ職員ヲ置ク
事務委員長 一名
事務委員 若干名
第二條 事務委員長及事務委員ハ會長之ヲ任命又ハ囑託ス
第三條 事務委員長ハ會長ノ指揮ヲ承ケ諸般ノ事務ヲ整理シ事務委員ハ會長及事務委員長ノ指揮ヲ承ケ諸般ノ事務ヲ分掌ス
第四條 本會ノ重要事務ヲ協議スル爲顧問ヲ置ク、顧問ハ會長之ヲ囑託ス
第五條 本會ノ事務ヲ分掌スルコト左ノ如シ

庶務係

- 一、職員及雇員ニ關スル事項
- 二、印類保管ニ關スル事項
- 三、文書ノ發送收受ニ關スル事項
- 四、宿直ニ關スル事項
- 五、日誌及印刷物編纂ニ關スル事項
- 六、使用人ニ關スル事項
- 七、出品賣却ニ關スル事項
- 八、經費豫算及支出ニ關スル事項
- 九、物品ノ調度ニ關スル事項
- 一〇、附帶事業ニ關スル事項
- 一一、其他各係ノ主管ニ關セサル事項

會場係

- 一、會場及式場設備ニ關スル事項
- 二、會場及式場裝飾ニ關スル事項
- 三、儀式ニ關スル事項
- 四、褒賞準備ニ關スル事項
- 五、會場及式場取締ニ關スル事項
- 六、出品係
- 一、出品臺帳ニ關スル事項
- 二、出品受渡ニ關スル事項
- 三、出品ノ陳列並ニ裝飾ニ關スル事項
- 四、出品附札ニ關スル事項

- 五、出品審査ニ關スル事項
- 六、出品ノ看守ニ關スル事項
- 接 待 係
- 一、來賓ノ宿舎ニ關スル事項
- 二、來賓ノ送迎及訪問ニ關スル事項
- 三、來賓及來會者記念品ニ關スル事項
- 四、來賓者ノ携帶品及下足ニ關スル事項
- 五、來會者接待ニ關スル事項
- 第六條 到達文書ハ庶務係ニ於テ收受シ年月日番號ヲ附シ各主任ニ配付スヘシ
- 第七條 文書ハ係員回議ノ上決裁ヲ經テ處理スベシ
- 第八條 文書發送ノ手續ヲ要スルモノハ庶務係ニ回附シ庶務係ハ遲滞ナク發送ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第九條 完結書類ハ庶務係ニ於テ編冊保存スヘシ
- 第十條 宿直ハ事務委員二名輪番ヲ以テ勤務スヘシ
- 第十一條 宿直時間ハ午後四時ヨリ翌日午前八時迄トス
- 第十二條 宿直中到達シタル文書ハ漏ナク宿直日誌ニ記載シ翌日庶務係ニ引繼クヘシ但シ至急ヲ要スルモノハ宛名記名ノモノハ宛名者、事務所宛ノモノハ開封ノ上主任者ニ送附スヘシ
- 第十三條 退場後至急發送ヲ要スヘキ文書ハ宿直者ニ於テ之ヲ執行スヘシ

大日本蠶絲會德島支會第一回製絲競技會規程

- 第一條 製絲業改良發達ニ資スル爲メ大正五年九月下旬ニ於テ製絲工女競技會ヲ開設ス
- 第二條 競技會ニ出席スベキ工女ハ本縣内器械製絲場工女ニ限ル
- 第三條 競技工女ヲ出サントスル工場ハ技術優等品行方正ナル者ノ内ヨリ簽數一割以内ノ範圍ニ於テ之ヲ撰拔シ左記様式ニ依リ九月十五日迄ニ届出ツベシ
- 第四條 競技用製絲原料ハ一工女ニ付一定ノ春蠶繭四升トシ其經費ハ工女ノ數ニ應ジ各工場ニ於テ負擔スルモノトス但製品ハ返戻ス

- 第四條 競技ハ各工場ニ於テ審査員立會指定ノ方法ニ依リ之ヲ行ハシメ成績優等ナル者ハ更ニ一ヶ所ニ集メ選抜競技セシムルモノトス
- 第五條 競技ノ成績優良ナル者ニハ左記等級ニ依リ優等賞ハ大日本蠶絲會頭其他ハ本縣知事ヨリ褒賞ヲ授與セラル、モノトス
- 優等賞
- 一等賞
- 二等賞
- 三等賞
- 褒 狀
- 第六條 審査長ハ本縣ニ派遣ヲ請ヒ審査員ハ支會長之ヲ囑託ス
- 第七條 審査又ハ褒賞ノ授與ニ關シ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ス
- 第八條 競技成績品ハ大日本蠶絲會德島支會第二回品評會開期中(大正五年十月十六日ヨリ同廿日迄)同會場ニ陳列シ公衆ノ觀覽ニ供ス
- 第九條 褒賞授與式ハ大正五年十月十七日麻植郡川島町ニ於テ舉行ス

姓 名	年 齡	現 工 場	他 工 場	摘 要

右製絲工女競技會ニ出席爲致度候間及届出候也
大正 年 月 日

大日本蠶絲會德島支會御中
住 所 何々製絲場主 何 某印

第二 役 員

- 支會長 末松 備一郎
- 副會長 廣 瀬 直 幹
- 幹事長 川田 達太郎
- 幹事 湯澤 善録
- 伊勢團治郎
- 松本 良市
- 大場 貞 存
- 池内 顯吉
- 水見 德五郎

レ秩序正シク陳列シ桑苗ハ庭内ニ假植シタリ
 參考品ハ其數七百六十餘種ノ多キニ上リタレトモ總テ紀念堂ニ之レヲ
 收メ陳列品ヲ以テ自然ノ區別ヲ作リシカバ格段ノ色彩ヲ呈セリ而シテ
 側壁ハ勿論天上ニ至ルマテ悉ク圖表模型其他參考品ヲ以テ填充シタレ
 バ其壯麗ナルコト實ニ言語ニ絶ス
 尙本館階下北面ノ一室ニハ本縣一代交配蠶種普及團主催トナリ此所ニ
 觀覽者ノ休憩所ヲ設ケ、蠶種々類改良ノ意ヲ偶シタル大ナル相撲額面
 並ニ蠶桑五穀ノ始祖保食ノ神ノ優良蠶種ヲ授ケ給フ絢繡タル立像農耕
 ニ努ムル百姓、桑摘乙女等ノ人形等ヲ案配シ茶菓ヲ饗シ餘與ヲ催フシ
 觀覽者ヲ款待セリ

第四 經費

經 費

本會ノ經費ハ當業者ノ特別寄附金ト出品物賣却ニヨル收入ヲ以テ充當
 セリ然ルニ計畫發表以來寄附申込額ハ豫定以上ニ達シ出品点数亦豫定
 ヲ超ヘタルタメ總テ當初計畫ノ施設ハ之ヲ變更シ盛大ナル舉式ヲ施行
 シ得タリ即チ收支決算左ノ如シ

收 入

第一目 經常部ヨリノ繰入金 百參拾九圓拾四錢九厘
 第二目 寄 附 金 七百參圓五拾錢
 第三目 雜 收 入 九百六圓五拾七錢壹厘
 合計金壹千七百四拾九圓貳拾貳錢

支 出

第一目 審 查 費 貳百參拾壹圓四拾七錢
 第二目 褒 賞 費 百五圓八拾參錢五厘
 第三目 陳 列 費 百拾四圓參拾貳錢七厘
 第四目 裝 飾 費 五拾貳圓七錢
 第五目 式 場 費 八百九拾壹圓七拾六錢四厘
 第六目 諸 備 給 費 百壹圓四拾錢
 第七目 印 刷 費 七拾九圓八拾錢

第八目 通信運搬費 四拾壹圓七拾九錢
 第九目 雜 費 百參拾圓五拾八錢四厘
 合計金壹千七百四拾九圓貳拾貳錢
 收入支出
 差引殘金ナシ

第五 審 查

品評會審查規程

- 第一條 審查ハ左ノ四部ニ分チ各部ニ主任一名ヲ置ク
- 第一部 繭
- 第二部 生絲、玉絲、真綿
- 第三部 蠶種、蠶絲業ニ關スル事業經營方法並成績
- 第四部 桑苗、蠶具
- 第二條 審查員ハ審查長ノ指示スル所ニ從ヒ出品ヲ審查スヘシ
- 第三條 審查員ハ審查シタル出品ニ付各自又ハ合議ノ上評点ヲ付スヘシ
- 第四條 肉眼審查ニ於テ合格セサルモノハ器械審查ヲ行ハス
- 第五條 審查ヲ了リタルトキハ主任ハ審查ノ概要及成績ヲ審查長ニ報告スヘシ
- 第六條 審查長必要アリト認ムルトキハ再審査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第七條 品評會規則ニ違背シ又ハ特殊ノ修飾アリト認メタル出品物ハ評議ノ上付点セサルコトヲ得
- 第八條 審查員ハ自己ノ出品ヲ審查スルコトヲ得ス
- 第九條 審查ハ公平ヲ旨トシ私心ヲ挾ムヘカラス
- 第十條 審查員及審査ニ關スルモノハ審査ニ關スル一切ノ事項ヲ漏洩シ若ハ之ニ關スル意見ヲ發表スヘカラス
- 第十一條 審査ハ十月七日ニ始メ同月十二日迄ニ完了スルコトヲ要ス
- 第十二條 審査長ハ十月十四日迄ニ審査ノ成績ヲ審理シ褒賞ノ等級ヲ擬シ審査ノ狀況、概評等ヲ支會長ニ申告スヘシ

審査ヲ分チテ豫備審査、本審査ノ二種トス
豫備審査

肉眼鑑定上其品位著シク劣リタルモノヲ不合格トス
本審査

豫備審査ニ合格シタルモノニ付左ノ項目ニ依リ審査ヲ行フ
一、品質

繭ノ形態、色澤、組織、齊一ニシテ品質佳良ト認メタルモノニ五
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

二、繭層量
乾乾五類ニ付繭層量ヲ調査シ春蠶ニアリテハ三十五%夏秋蠶ニア
リテハ三十二%以下ヲ零点トシ以上一%ヲ増ス毎ニ三点ヲ加フ

三、糸長
繭五類ヲ繰糸シ二ケ以上三百五十回ニ滿タサルモノアルトキ及黃
繭平均六百回、白繭同四百五十回以下ナルモノヲ零点トシ以上平
均糸長十回ヲ増ス毎ニ一点ヲ加フ

四、織度
繭五類ノ平均織度春繭ニアリテハ二、七乃至三、三デニール夏秋蠶
ニアリテハ二、五乃至三、三デニールノモノヲ佳良トシ之レニ三
十点ヲ付シ上下〇、一デニール毎ニ二点ヲ減シ尙最細ナルモノノ
織度ト最太ナルモノ、織度トノ差〇、一デニール毎ニ一点ヲ減シ
盡クレハ零点ニ止ム

五、類節
繭五類ニ付最初二百回ヲ檢シ其平均ニ對シ無類二十点ヲ付シ一類
ニ付一点ヲ減シ零点ニ止ム

六、解舒
解舒ノ良否及切斷ノ多寡ニ付キ上中下三段ニ區別シ佳良ナルモノ
ヲ上トシ之レニ十点ヲ付シ普通ナルモノヲ中トシ之レニ五点ヲ付
シ不良ナルモノヲ下トシ之レヲ零点トス

蠶種
審査ヲ分チテ豫備審査、本審査ノ二種トス
豫備審査

蛾區ノ填補卵ノ修飾ヲ施シタルモノ及品位著シク劣リタルモノヲ不
合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、外觀
卵粒齊整ニシテ産附佳良ナルモノニ五十点ヲ付シ等差アル毎ニ減
点シ零点ニ止ム
二、調製
調製ノ適良ナルモノニ十点ヲ付シ等差アルニヨリ減点シテ零点ニ
止ム
三、出穀
品種純良ニシテ種繭ニ適當ト認メタルモノニ二十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

審査ヲ分チテ豫備審査、本審査ノ二種トス
豫備審査

蛾區ノ填補卵ノ修飾ヲ施シタルモノ及品位著シク劣リタルモノヲ不
合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、外觀
卵粒齊整ニシテ産附佳良ナルモノニ五十点ヲ付シ等差アル毎ニ減
点シ零点ニ止ム
二、調製
調製ノ適良ナルモノニ十点ヲ付シ等差アルニヨリ減点シテ零点ニ
止ム
三、出穀
品種純良ニシテ種繭ニ適當ト認メタルモノニ二十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

審査ヲ分チテ豫備審査、本審査ノ二種トス
豫備審査

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

病蟲害ニ罹リタル徵候及傷痕アルモノ或ハ異品種ヲ混シ雜駁ナル
モノヲ不合格トス
本審査
豫備審査ニ合格シタルモノニ就キ左ノ項目ニ依リテ審査ヲ行フ
一、根ノ状態
採苗法ノ如何ニ拘ハラズ能ク肥大シ發根ノ状態佳良ナルモノニ六
十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
二、幹ノ状態
幹ハ種類固有ノ形態ヲ保チ發育佳良ニシテ肥大シ健實ナルモノニ
四十点ヲ付シ等差アル毎ニ減点シテ零点ニ止ム
蠶具類
一、構造ノ良否
材料適當ニシテ意匠佳良製作完全ナルモノニ四十点ヲ付シ等差ア
ル毎ニ減点シテ零点ニ止ム

二、實用ノ價值
取扱便利ニシテ實用上ノ効果大ナリト認ムルモノニ四十點ヲ付シ
等差アル毎ニ減點シ零點ニ止ム

三、持久力
堅牢ニシテ能ク使用久シキニ耐ユルト認メタルモノニ二十點ヲ付
シ等差アル毎ニ減點シ零點ニ止ム

生 絲

肉眼審査
一、色澤 佳良ナルモノニ三十點ヲ付シ等差アル毎ニ減點シ零點ニ
止ム

二、束裝 完全ナルモノニ二十點ヲ付シ等差アル毎ニ減點シ零點ニ止
ム

三、絡交 適當ナルモノニ二十點ヲ付シ等差アル毎ニ減點シ零點ニ
止ム

四、粹角 定着ノ程度其適度ヲ得タルモノニ十五點ヲ付シ等差アル
毎ニ減點シ零點ニ止ム

五、觸感 觸感ノ佳良ナルモノニ二十點ヲ付シ等差アル毎ニ減點シ
零點ニ止ム

器 械 審 査

一、再繰 其難易ヲ檢シ無切斷ナルモノヲ佳トシ二十點ヲ付シ一切
斷毎ニ二點ヲ減シ零點ニ止ム

二、織度 目的織度ニ適合シタルモノニ三十點ヲ付シ其差〇、二五
デニール毎ニ一點ヲ減シ尙細太ノ差〇、二五デニール毎
ニ一點ヲ減シテ零點ニ止ム

三、類節 皆無ノモノニ三十點ヲ付シ大類一ヶ毎ニ二點、小類一ヶ
毎ニ一點ヲ減シテ零點ニ止ム

四、強力 検査供用糸ノ織度ニ三、六グラムヲ乘シタル數ニ相當ス
ル強力ヲ有スルモノニ二十點ヲ付シ上下一グラムアル毎ニ
二點ヲ加除ス

五、伸度 糸長半メートルノ延長一〇〇ミリメートルノ伸度ヲ有ス
ルモノニ零點ヲ付シ以上一ミリメートル毎ニ一點ヲ付加
ス

玉 絲

一、品質 色澤品位佳良ナルモノニ三十點ヲ付シ等差アル毎ニ減點
シ零點ニ止ム

二、整理 束裝絡交粹角ノ適當ナルモノニ二十點ヲ付シ等差アル毎
ニ減點シ零點ニ止ム

真 綿

一、色澤 佳良ナルモノニ二十點ヲ付シ等差アル毎ニ減點シ零點ニ
止ム

二、強度 佳良ナルモノニ二十點ヲ付シ等差アル毎ニ減點シ零點ニ
止ム

三、調製 展斑ノ多少、耳揃ノ良否其他調製ノ巧拙ヲ鑑定シ其最モ
佳良ナルモノニ五十點ヲ付シ等差アル毎ニ減點シ零點ニ
止ム

蠶絲業ニ關スル經營方法成績及圖案

一、蠶絲業ニ關スル經營方法及成績ハ其狀況ヲ調査シ付點ス
二、圖案、其適否ニヨリ附點ス

審査用紙様式

(完)

圖 審 査 付 点 表 一 號

符號	豫備審査品質	圖 層 量			合計	審 査 員
		全 量	層 量	層 量 %		
名稱		全 量	層 量	層 量 %		

圖 審 査 付 点 表 二 號

符號	名 稱					合計	平均	附	点
	1	2	3	4	5				
絲長									合計
織度									
類節									
切斷									
備考									
									審査員

第二回品評會審査委員氏名

審査委員長 橫濱生絲検査所技師 增田由之
 審査委員 德島縣技師 秦 一二郎
 原葦種製造所技師 水見徳五郎
 德島縣農業技師 湯澤善録
 同 技師 松本良市
 縣吏 佐光貞平
 同 江口貫太郎
 縣立農業學校教諭 安立 高
 那賀郡農業技師 土居 薫
 名西郡農蠶講習所技師 田幡仲藏
 板野郡農蠶學校教諭 黒田良次
 阿波郡農業技師 金野慶七
 麻植郡農蠶學校教諭 福田徳太郎
 美馬郡蠶業講習所長 島村三三
 三好郡女子實業學校教諭 宮本篤祐
 繭絲同業組合技師 小坂繁雄
 蠶種同業組合技師 中島菅次郎

第一回製絲競技會審査委員氏名

審査委員長 德島縣技師 秦 一二郎
 審査委員 德島縣農業技師 湯澤善録
 同 德島縣繭絲同業組合技師 小坂繁雄

豫備審査
 秦野技師 福田教諭
 品位審査 土居技師 島村技師
 佐光主事

審査事務分擔
 主任 秦 技師

水見技師	田幡技師	黒田教諭
江口主事	中島技師	
繭層量調査	安立教諭	宮本教諭
器械審査	小坂技師	
湯澤技師	小坂技師	湯澤技師
第二部	主任 湯澤技師	
秦 技師	小坂技師	
第三部	主任 水見技師	
松本主事	佐光主事	江口主事
島村技師	福田教諭	黒田教諭
中島技師	秦 技師	
第四部	主任 松本主事	
安立教諭	土居技師	田幡技師
宮本教諭	金野技師	水見技師
秦 技師	以上	

審査状況

品評會審査は十月七日午前十時より麻植郡議事堂に於て之れを開始し
 審査長以下各審査員列席の上厳密なる審査内規を凝議制定し午後四時
 より第一部審査に着手したり、爾來毎日數十名の助手を督して審査を
 續行し同月十三日午後六時までに各部の審査全く終了せり
 製絲工女競技會審査は九月十五日より同二十七日に至る十三日間各工
 場に就き之れを行ひ尙此内優等者七名を選抜し麻植郡鴨島町筒井製絲
 場に於て再競技の上前回の成績を綜合し上位のものより其順位を決定
 せり

繭器械審査成績表

甲、春 蠶 繭
 名稱別成績表

名稱	口數	最多	最少	平均	最長	最短	平均	最大	最細	平均
合長阿	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
以上歐洲系平均	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
黃龍	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
高那	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
支那	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
國河	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
三河	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合諸	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合長白龍	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合熊原三號	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合熊原四號	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合信一〇一號	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合支那	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合大錦	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合青熟	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合千回白龍	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合以形	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
掛合紹興	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
以上支那系平均	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
青熟	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
種島	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
長白龍(夏)	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
長白龍(秋)	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
吹以形	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
大龍	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
大龍	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
千回白龍	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
大和	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
日本	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
大日	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
中草	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
大日	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
實白	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇

丙、系統別成績一覽表

系統	口數	最多	最少	平均	最長	最短	平均	最大	最細	平均
寶白	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
國白	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
飛龍	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
銀白	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
寶白	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
以上在來平均	一	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇

丁、絲長變差調查表

(1) 名稱別

名稱	口數	最多	最少	平均	最長	最短	平均	最大	最細	平均
歐洲系黃龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
歐洲系白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
掛合歐洲系黃龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
掛合歐洲系白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
支那系白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
在來白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
以上春秋盤平均	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
支那系白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
在來白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
以上春秋盤平均	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
交雜白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
支那系白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
在來白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
以上春秋盤平均	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
總計	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
顏色別(黃龍)	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
歐洲系白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
支那系白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
在來白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
以上春秋盤平均	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
內白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
歐洲系白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
支那系白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三
在來白龍	二〇	四〇	三〇	三三	四〇	二七	三三	四〇	二七	三三

系統別	一千回以上	八百回以上	七百回以上	六百回以上	五百回以上	四百回以上	四百回以下	合計	平均
系 統 別	1	1	1	1	1	1	1	7	1000
黄 蘭								1	1000
交 雜 白 蘭								1	1000
支 那 系 白 蘭								1	1000
在 來 白 蘭								1	1000
計	1	1	1	1	1	1	1	7	1000

器械審査成績の順位 (織度ハ太キモノヨリ順次配列)

順位	名 稱	歩 合	名 稱	長 度	名 稱	織 度
一	イナクローツク	87.8	イナクローツク	68	掛合三龍又	39.6
二	イナクローツク	87.8	イナクローツク	68	ラゴニシ	39.6
三	愛 黄	87.8	イナクローツク	68	改 良 赤 又	39.6
四	掛合赤熟	87.8	イナクローツク	68	アランビニール	39.6
五	掛合銀世界	87.8	イナクローツク	68	好	39.6
六	掛合金鳳	87.8	イナクローツク	68	系	39.6
七	肥 後 錦	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
八	掛合金鳳	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
九	掛合三龍又	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一〇	ナヤロ	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一一	キネセオロ	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一二	キネセオロ	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一三	イナクローツク	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一四	アスコリヒセ	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一五	長崎黄二號	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一六	白 龍	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一七	改 良 又 昔	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一八	名古屋黄石	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
一九	清 白	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二〇	黄 石	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二一	犬 頭	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二二	金 世	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二三	金 世	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二四	新 昌	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二五	赤 熟	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二六	原 二 號 又 昔	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二七	支 那 二 十 號	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二八	ヒレネ	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
二九	犬 頭	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三〇	金 世	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三一	金 世	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三二	銀 世	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三三	銀 世	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三四	白 龍	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三五	白 龍	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三六	三 龍	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三七	掛 合 又 昔	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三八	掛 合 大 昔	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
三九	アランビニール	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四〇	シヤロベル	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四一	掛 合 佛	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四二	名 古 屋 又	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四三	歐 五 號 支 四 號	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四四	大 昔	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四五	又 昔	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四六	ラゴニシ	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四七	掛 合 支 那 二 十 號	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四八	信 一 〇 五 號	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
四九	白 蘭 黄 石 丸	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
五〇	青 熟	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
五一	掛 合 黄 石 丸	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
五二	國 熟	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
五三	掛 合	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
五四	歐 支 分 離 白	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
五五	改 良 赤 又	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
五六	糸 好	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6
五七	アルプス	87.8	イナクローツク	68	掛合支那二十號	39.6

大正五年十月十七日麻植郡川島町尋常高等小學校々庭ニ於テ大日本蠶絲會德島支會第三回總會及第二回品評會褒賞授與式並ニ第一回製絲競技會褒賞授與式ヲ舉行セリ
此日天氣清朗ニシテ空ニ一点ノ雲影ヲ止メズ絶好ノ品評會日和ニシテ折柄物興セル交配種熱ハ當業者ノ意ヲ峻リ來會スルモノ無慮一千二百有餘名ノ多キヲ算セリ
式場ノ入口ニハ大ナル綠門ヲ設ケ其他周圍ニハ幕ヲ引キ廻シ正面中央ナル講堂支關前ニハ高壇ヲ置キ其右方ニ會頭代理及隨行員審査長審査員席、左方ニハ支會長(知事)其他係員新聞記者席ヲ設ケ前面ニ來賓受賞者會員ノ席ヲ設ケタリ
當日來會者ノ主ナルモノハ副會頭牧野子爵、支會長末松知事、高島蠶業試驗場綾部支場長、藤岡京都高等蠶業學校助教、加藤蠶糸會技師、美馬貴族院議員、川真田衆議院議員、宮城名東、武井勝浦、祖川板野、井内名西、松浦麻植、眞殿阿波、河原美馬ノ各郡長、有吉、林縣理事官、梅木、岡村、鈴木、勝部縣技師縣會議員郡會議員町村長ニシテ定刻ニ至ルヤ振鈴ト共ニ會員出品來賓ト順次着席アリ次テ本會々頭代理牧野副會頭末松支會長ノ先導ニテ臨席セラル、席定マルヤ泰幹事長總會開會ノ旨ヲ告グ末松支會長ハ左ノ式辭ヲ朗讀セリ

儀 式

秋清ク氣澄ミ楓樹漸ク錦ヲ粧ハムトスルノ佳候茲ニ地ヲ川島町ニトシテ大日本蠶絲會德島支會總會及第二回品評會並ニ製絲工女競技會褒賞授與式ヲ舉行スルニ際シ閣下並ニ多數貴賓ノ來臨ヲ辱クシタルハ本會ノ最モ光榮トスル所ナリ
本縣ハ上古斯業ノ先進地ヲ以テ稱セラレシガ中世衰頽シテ今其跡ノ攷フヘキモノナン維新後漸ク發達ノ曙光ヲ認メシモ遂ニ其盛況ヲ見ルニ至ラザリキ明治二十年以後外藍ノ輸入日ニ盛ナルニ方リテ再ヒ勃興ノ氣運ニ向ヒ爾來年ト共ニ長足ノ進歩ヲ示シ今ヤ再ヒ古昔ノ面目ヲ回復セントスルニ至レリ
惟フニ歐洲戰亂ハ我が輸出貿易ニ好影響ヲ來シ客年以來繭絲ノ價格ハ好調ヲ以テ經過シ來レルヲ以テ斯業ノ活氣亦頗ル觀ルベキモノアリ然リト雖斯ノ如キハ一時偶然ノ現象タルベク將來大ニ改良發達ノ策ヲ講

式 辭

大正五年十月十七日麻植郡川島町尋常高等小學校々庭ニ於テ大日本蠶絲會德島支會第三回總會及第二回品評會褒賞授與式並ニ第一回製絲競技會褒賞授與式ヲ舉行セリ
此日天氣清朗ニシテ空ニ一点ノ雲影ヲ止メズ絶好ノ品評會日和ニシテ折柄物興セル交配種熱ハ當業者ノ意ヲ峻リ來會スルモノ無慮一千二百有餘名ノ多キヲ算セリ
式場ノ入口ニハ大ナル綠門ヲ設ケ其他周圍ニハ幕ヲ引キ廻シ正面中央ナル講堂支關前ニハ高壇ヲ置キ其右方ニ會頭代理及隨行員審査長審査員席、左方ニハ支會長(知事)其他係員新聞記者席ヲ設ケ前面ニ來賓受賞者會員ノ席ヲ設ケタリ
當日來會者ノ主ナルモノハ副會頭牧野子爵、支會長末松知事、高島蠶業試驗場綾部支場長、藤岡京都高等蠶業學校助教、加藤蠶糸會技師、美馬貴族院議員、川真田衆議院議員、宮城名東、武井勝浦、祖川板野、井内名西、松浦麻植、眞殿阿波、河原美馬ノ各郡長、有吉、林縣理事官、梅木、岡村、鈴木、勝部縣技師縣會議員郡會議員町村長ニシテ定刻ニ至ルヤ振鈴ト共ニ會員出品來賓ト順次着席アリ次テ本會々頭代理牧野副會頭末松支會長ノ先導ニテ臨席セラル、席定マルヤ泰幹事長總會開會ノ旨ヲ告グ末松支會長ハ左ノ式辭ヲ朗讀セリ

スルニ非ザレバ悔ヲ百年ニ貽スコトアルベシ是ニ於テ到來ノ良機ヲ捉
ヘ益々斯業ノ改善ヲ企圖セムタメ本縣蠶絲業ノ中心地タル川島町ニ於
テ本會主催第二回品評會並ニ製絲工女競技會ヲ開設シ講究研鑽ノ料ニ
資セムコトヲ期シタリ幸ニシテ當業者ノ熱心ト各位ノ努力トニ賴リ多
數ノ出品ヲ得テ豫期ノ成績ヲ收メタルノミナラス審査長以下審査員諸
君ノ奮勵ニ依リテ既ニ審査ヲ結了シ併セテ褒賞授與式ヲ舉行スルニ際
シ來賓當業者並ニ會員諸氏ニ對シテ深ク感謝ノ意ヲ表シ尙將來ノ希望
ヲ披陳シ以テ式辭ニ代ユト云爾
大正五年十月十七日

大日本蠶絲會德島支會長 末松借一郎
次テ秦幹事長ハ大正元年十月七日日本會支會第二回總會舉行後本日ニ至
ル間ニ於ケル本會事務ノ概況ヲ左ノ如ク報告セリ

一、會 員
現在數ハ特別會員八十三名通常會員二千二百十九名ニシテ前總會當時ニ比スレハ特別會
員十三名通常會員六百十七名ヲ增加セリ

二、役 員
支會長渡邊勝三郎氏ハ大正三年五月退任同年同月秦豐助氏就職大正四年一月同氏退任同
年二月龜山理平太氏就職同年三月死亡同年五月現支會長末松借一郎氏就職セラル
副會長川越壯介氏ハ大正四年七月退任同年八月現副會長廣瀬直幹氏就職セラル
幹事長住田史郎氏ハ大正三年五月商議員ニ轉シ同年五月秦一二郎氏幹事長ヲ囑託セラレ
商議員山内時行氏ハ大正四年六月退任同若城伊平氏ハ大正五年一月死亡同年同月縣立農
業學校長清水勝雄氏、麻植郡立農學校校長尾末氏、板野郡立農學校校長押方克巳氏、
那賀郡加茂谷村福岡吉次郎氏、名西郡石井町生田和平氏、麻植郡牛島村石田龜太郎氏、
同郡龜島町筒井直太郎氏、同郡同町佐渡文右衛門氏、同郡川島町阿部連三郎氏、板野郡
一條村村部久次郎氏、名西郡高川原村近藤嘉十郎氏、美馬郡脇町生田澤之資氏ニ商議員
ヲ囑託セラレタリ

三、役 員 會
大正五年二月二十九日蠶絲品評會開設ニ關スル協議ノ爲商議員會ヲ開催セリ
四、支會事業大正二年五月一日ヨリ一週間製業講習所技手藤岡秀次氏ヲ聘シ麻植郡鴨島町ニ
於テ製絲講習會ヲ開キ二十一名ニ講習證書ヲ授與セリ
同年十月二十五日ヨリ五日間大日本蠶絲會囑託吉永信子女史ヲ聘シ縣下主ナル製絲工場
ニ就キ巡回講習會ヲ開催セリ
同年十二月十四日ヨリ同二十一日迄京都製業講習所技手水野鶴次郎氏ヲ聘シ板野、阿波
美馬、三好、麻植、名西、名東ノ七郡ニ於テ各一日間製業ニ關スル講習會ヲ開催セリ
大正三年三月二十三日ヨリ一週間京都高等蠶業學校教授田邊傳太郎氏ヲ聘シ蠶業取締所
德島支所ニ於テ夏秋蠶飼育法講習會ヲ開キ四十五名ニ講習證書ヲ授與セリ

大正五年二月十四日ヨリ五日間東京高等蠶絲學校講師横田長太郎氏ヲ聘シ美馬郡脇町ニ
於テ夏秋蠶飼育ニ關スル講習會ヲ開催シ聽講者二百五十名内二百三名ニ對シ講習證書ヲ
授與セリ
同年三月一日德島市千秋閣ニ於テ蠶業試驗場技師下井盛夫氏ノ蠶種改良ニ關スル講話會
ヲ開催セリ
昨十六日ヨリ五日間常町ニ於テ第二回品評會ヲ開催シ本日ハ第三回總會並ニ第一回製絲
工女競技會又本日ヨリ明日ニ亘リ製絲業講話會等ヲ開催スルコト、セリ
今圓ノ施設ニ就テハ縣下ノ蠶種製造者製業者生蠶取扱業者養蠶者及川島町官長有志諸
氏ヨリ金品及勞力ノ援助ヲ得盛況ヲ極ムルニ至レリ茲ニ其厚意ヲ謝ス
右報告終リテ直チニ品評會褒賞授與式ニ移ル旨ヲ告ケ増田審査長左ノ
審査申告ヲ爲シ褒賞ノ授與ヲ稟請セリ

審 查 申 告 書

大日本蠶絲會德島支會第二回品評會ニ開催セラル、ニ當リ不肖由之乏
シキヲ以テ審査長ノ重任ヲ荷ヒ幸ヒ審査員諸君ノ熱誠ナル助力ニ依リ
茲ニ審査結了ヲ告ケ其成績ヲ申告スルノ光榮ヲ有スルハ洵ニ欣幸トス
ル所ナリ
由來本縣ノ風土ハ蠶桑ノ業ニ恰適シ吉野川沿岸ナル肥沃地ニ於テ夙々
長足ノ發達ヲナシ一時桑園ハ全國無比ト稱セラレ產繭ノ優美ハ世人ノ
賞讃ヲ博シタリシガ其後經營其當ヲ得サルト絲況ノ變遷トハ蠶家ノ收
益ヲ減殺シ稍衰退ノ傾向アリシモ近時復挽回發展ノ機運ヲ呈シ殊ニ品
種ノ改良ハ著明ニシテ恰モ革新ノ感アリ從テ育蠶法ニ將タ經營法ニ大
ニ改善ヲ要スベキ者アラン此時ニ當リ斯業生產品其他蠶絲ニ關スル成
績品等ヲ一堂ノ下ニ蒐メ優劣ヲ明カニシ採長補短ニ便ニシ以テ益々秩
序アル發達ヲ企圖セラル洵ニ時宜ニ適セルノ舉ナリトス而シテ今回ノ
出品總點數ハ貳千四百四拾五點ニシテ之レヲ前回ニ比スレハ殆ント倍
加ノ多數ニ達セルハ當局ノ獎勵宜シキヲ得タルト當業者ノ如何ニ熱心
努力シツ、アルヤヲ察スルニ足ルベク斯業ノタメ慶賀ニ堪ヘザルナリ
今審査ノ成績ニ依リ之ガ概評ヲ下サン
一、繭 ノ出品ハ二千二百三十八點ニシテ春蠶ハ其七割餘ヲ占メ黃繭
ハ二割餘ニ當レリ尙在來種ト交雜種トハ略三七トノ比ニアリ繭形
ハ概シテ大ニ繭層ニ於テハ秋蠶ハ比較的改良ナリシモ春蠶ハ意外ニ
繭層貧弱ニシテ且整齊ナラス絲量從テ多カラザルノ感アリ之レ飼育
上殊ニ給桑其宜シキヲ得サルニ起因スヘシ故ニ豊美ナル繭ヲ收メン

ニハ須ク優秀ナル品種ヲ選ミ良桑ヲ飽食セシムルノ用意ナカラザル
ベカラズ交雜種ノ飼育ニ對シテハ尙一段ノ改良ヲ要スベキナリ
一、蠶種 ハ出品數九十六點ニシテ各蠶區ノ卵數稍多カリシガ産着粗
ニシテ外觀ヲ損セルモノアリ又蛾尿ノ卵面及臺紙ヲ汚染セシモノ等
少ナカラス今後種繭ノ保護及母蛾ノ處置、採種時ニ於ケル温濕度ニ
一層ノ留意ヲ要スベキナリ
一、生絲 ノ出品數ハ十七點ニシテ品質概シテ良好ナリシハ主トシテ
沈澱法ニ改良シタル結果ナラン然レトモ色澤區々ニシテ褐色又黝
色ヲ帶ヒ觸感又軟弱ニ失スル等ノ缺點アルハ養繭及練絲法ノ齊一ヲ
缺ケルニ依ルナルヘシ織度ハ從來本縣生絲中ニハ往々其開差大ニシ
テ横濱市場ノ苦情ヲ耳ニシタルモ今回ノ出品ハ概シテ整齊ナリシハ
喜ヲベキナリ
玉絲ハ出品僅カ一點ニシテ色澤品位トモニ可良ナリシガ徒ニ生産費
ヲ増嵩セルノ跡歴然タルハ營利的ニ之ヲ經營スル上ニ於テ一考ヲ要
スヘキモノアラン
一、真綿 ハ其出品數七點ニシテ内一點ハ色澤展舒均齊ニシテ緊張力
ニ富ミ調製ノ巧ミナルハ稀ニ見ル優品ナリシガ他ハ精練不良ニシテ
展舒齊一ヲ缺キ色澤亦鮮麗ナラザリシハ大ニ改良ヲ要スヘキ點ナリ
一、桑苗 ノ出品數ハ五十五點ニシテ佳良ナルモノ少キハ遺憾ナリ蓋
シ生産費ノ低廉ニノミ留意シ苗ノ生理ヲ顧慮セサル結果ナラン發根
ハ概シテ佳ナラス根幹ノ均衡ヲ失シ又根ニ腺蟲ノ被害アルモノ少ナ
カラス幹ハ徒長シテ健實ナラザルモノ多ク往々側枝ヲ出シ葉序ヲ亂
セルモノアリ宜シク栽培ニ一層ノ注意ヲ加ヘ摘葉ヲ慎ミ根幹ノ充實
セル良苗ヲ生産シ益々廣ク各地ニ供給スルノ用意アランコトヲ望ム
其他蠶具及蠶絲業ニ關スル經營法成績書等ノ出品ハ合計三十一點ニ
シテ養蠶組合成績中ニハ他ニ摸範トシテ賞讃スヘキモノアルヲ認ム
蠶具類ニアリテハ在來品ニ多少ノ技巧ヲ加ヘタルモノ又ハ意匠稍可
ナルモ實用ニ適セザルモノ多シ尙ホ一層ノ考案ニ努メ實用上有益ナ
ル製品ノ作出アラムコトヲ希望ス
以上概評セルガ如ク慎重公平ニ審査ヲ遂ケ茲ニ優等四人一等二十六人
二等七十四人三等二百二十人四等三百五十四人ヲ選拔シテ賞ヲ擬シ
既ニ閣下ノ裁決ヲ經タリ謹テ授賞アラムコトヲ稟請ス

大正五年十月十七日

大日本蠶絲會德島支會第二回品評會

審査長從六位勳六等 增 田 由 之

會頭代理牧野副會頭左記優等賞ヲ授與シ次テ末松知事一等賞以下ノ褒
賞ヲ授與セリ

特別優等賞

一、春 繭 赤 熱 阿波郡八幡町 須見信太郎

優 等 賞

一、春 繭 黃石丸 麻植郡牛島村 小口組 養蠶部

一、春 蠶種 青 熱 麻植郡西尾村 工 藤 虎 吉

一、生 絲 絲 名西郡石井町 東生社 製絲所

本會德島支會第二回品評會審査員長ノ薦告ニ因リ之ヲ授與ス(以上各
通同文)

大日本蠶絲會總裁

大勳位功二級 載 仁 親 王

右褒賞授與了リ引キ續キ製絲工女競技會褒賞授與式ニ移リ審査長
左ノ申告ヲナス

審 查 申 告 書

大日本蠶絲會德島支會第一回製絲工女競技會褒賞授與式ヲ舉行セラル
、ニ方リ不肖審査長ノ故ヲ以テ爰ニ審査ノ成績ヲ申告スルハ洵ニ光榮
トスル所ナリ

仰製絲業ノ改善發達ヲ圖ラントセハ原料繭ノ統一管理經營方法ノ改善
等幾多緊要事項アリト雖就中工女技術ノ進歩ヲ促スコトハ焦眉ノ急ニ
屬ス己ニ昨年度德島縣繭絲同業組合ニ於テモ之ガ競技會ヲ開キタルカ
本會亦茲ニ鑑ミ其第二回ヲ開催スルニ至レリ競技ノ方法ハ昨年ハ各工
場ニ就テ審査セシモ今回ハ競技人員百拾名中優秀者七名ヲ更ニ一工場
ニ集メテ競技セシメタリ而シテ競技十一工場中九工場マテ沈澱法ナリ
シヲ以テ今回ノ競技會ハ單ニ製絲競技ノミニ止マラス自ラ浮線ト沈
線ノ兩者ニ於ケル絲量工程等ノ比較并ニ沈澱法中煮繭技術ノ巧拙ガ如
何ニ絲量ノ増減ニ影響スルカヲ知ルヲ得タリ今其内容ヲ述ベシニ
線時間ニ於テ最モ早キモノハ繭四升ニ對シ二時間五分最モ遅キハ三
時三十五分其差一時三十分ナルモ昨年ニ比スレバ大ニ其開キヲ減セリ

絲量ニ於テハ一捻多キハ十八分五厘少ナキハ十六分六分其差二分五分五厘ニシテ昨年ノ一八分ニ比スレハ四分五厘ノ多キヲ見ル之レ沈線法表爾技術ノ尙未熟ナルモノアル結果ナルヲ以テ深ク注意スルヲ要ス

切斷ハ一般ニ昨年ニ比シ少ク織度概シテ良好ナリシモ稀ニ細太ノ差甚シキモノヲ見タリ

之ヲ要スルニ今回ノ競技會ハ本縣トシテ第二回目ナリシヲ以テ前年ニ比シ豫選ニ注意セル工場多カリシモ尙未ダ茲ニ留意セザル者アリシハ甚ダ遺憾トスル所ナリ競技會開設ノ趣旨ハ工女ヲシテ平素勤勉努力セシメ技術ノ進歩向上ヲ圖ルヲ要旨トス近時本縣ノ製絲業ハ其技術ニ於テ將タ經營ノ方法ニ於テ面目ヲ一新シ堅實ナル發達ノ緒ニ就ケリト雖尙工女ノ技術未熟ナル者アリ宜シク工女ノ養成ニ努メ技術ノ向上ヲ圖リ以テ健實ナル斯界ノ發達ヲ期セラレムコトヲ望ム

以上審査ノ成績ニ基キ優等賞二名一等賞三名二等賞四名三等賞十名褒狀二十二名ヲ選拔シテ賞ヲ擬シ既ニ閣下ノ裁定ヲ經タリ茲ニ謹テ褒賞ノ授與アラムコトヲ稟請ス

大正五年十月十七日
大日本蠶絲會德島支會第一回製絲工女競技會
審査長從七位 秦 一二郎

終ツテ牧野副會頭ヨリ左ノ優等賞ヲ末松知事ヨリ武内ツルノ外三十八名ニ褒賞ノ授與アリ次テ泰事務委員長有功章授與ニ移ル旨ヲ告ゲ牧野副會頭ヨリ左記四名ニ有功章ヲ交付セラル

- 松 浦 並 雄
- 川 眞 田 萬 太郎
- 佐 光 貞 平
- 高 橋 敦 太郎

本會ノ旨趣ヲ賛成シ會務ニ貢獻シ其功勞顯著ナルヲ以テ茲ニ五等
有功章ヲ授與ス (同文各通)
次テ蠶絲業功勞者表彰狀授與ニ移ル旨ヲ告ゲ末松知事ヨリ左記七名ニ
對シ表彰狀ノ授與ヲナス

功勞者表彰文

名東郡加茂名町 小 口 卷 太郎
明治四十一年製絲工場ヲ起シ又能ク爾質ノ選擇ニ留意シ毎歲
多額ノ優良品ヲ製出シテ純ヲ當業者ニ示シ斯業ノ發達ニ貢獻
スル所尠ナカラズ仍テ銀盃一個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

- 麻植郡鳴島町 佐 渡 文 右衛門
- 那賀郡加茂谷村 福 岡 吉 次郎

明治四十年本縣製絲業ノ尙振ハザルニ際シ進ンデ斯ノ業ニ着
手シ幾多ノ支障ヲ排除シテ拮据經營克ク所期ノ目的ヲ達成シ
斯業ノ發達ニ努力スル所尠ナカラズ仍テ銀盃一個ヲ授與シ之
ヲ表彰ス

- 阿波郡林村 米 倉 利 太郎
- 板野郡里浦村 宮 内 岸 太郎

夙ニ副業トシテ養蠶ノ有利ナルヲ唱導シ自カラ良種ノ製造普
及ヲ圖リ蠶絲ノ發達ニ努力シ又選バレテ斯業ノ公職ニ從事ス
ハ其ル事多年終始盡力スル所尠ナカラズ仍テ銀盃一個ヲ授與シ之
ヲ表彰ス

- 麻植郡牛島村 山 口 嘉 吉
- 美馬郡貞光町 永 井 佐 平

夙ニ共同事業ノ有利ナルヲ唱導シ明治三十九年稚蠶共同飼育
ヲ始メ爾來之ガ經營ニ當リ又養蠶組合ヲ設ケテ盡力スル所尠
ナカラズ仍テ木杯一個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

- 板野郡里浦村 美馬郡貞光町 永 井 佐 平

(明治四十一年)
(明治四十五年)
(明治三十七年)
夙ニ共同事業ノ有利ヲ唱導シ明治(頭書年號)何年率先シテ
養蠶組合ヲ設ケ實踐躬行斯業ノ改良ニ盡力スル所尠ナカラズ
仍テ木杯一個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

次テ會頭代理牧野副會頭左ノ告辭ヲ朗讀ス

大日本蠶絲會德島支會ハ本日ヲトシ第二回品評會褒賞授與ノ盛典ヲ舉
行セラル慶賀ノ至ニ禁ヘサルナリ

抑モ我生絲貿易ハ客年以降稀有ノ好況ヲ呈シ本年一月ヨリ八月ニ至ル
總輸出額六億六千餘萬圓中生絲ノ總輸出額一億五千七百餘萬圓ヲ算
シ正ニ總輸出額ノ二割四歩ヲ占ム若シ夫レ此趨勢ヲ以テセンカ本年ノ
生絲輸出額ハ優ニ二億圓ヲ超過シ空前ノ巨額ニ達スベキヤ疑ヲ容レザ
ルナリ

由來本縣ノ氣候風土蠶桑ニ適シ桑樹發育ノ旺盛ト蠶繭ノ優良トハ一時
先進地方ヲシテ後ニ瞠若タラシムルモノアリタリ然ルニ當支會カ第一
回品評會ヲ開催セラレタル大正元年ニ願ルニ產繭額五萬餘石ニシテ全
國各縣ノ第二十五位ヲ占メタルモノ五年後ノ今日ニ於テモ依然トシテ
收購ハ五萬餘石ニ止リ順位ハ二十五位ニ在リテ其間著シキ發展ヲ看ル
能ハザルハ甚ダ以テ遺憾トスル所ナリ然レドモ近時縣當局ト當業者ト
ハ共ニ滿種ノ改良產額ノ増殖ニ銳意努力セラレ土地ト勞力トノ狀態ハ
尙發達ノ餘地緯々タルモノアリテ存スレハ將來ノ進歩期シテ待ツベキ
ナリ蓋シ當支會カ縣當局ノ施設ト相俟テ茲ニ第二回品評會ヲ開設セラ
レタル所以ノモノ亦故アリト謂フベシ

今ヤ歐洲ノ戰亂ニシテ其終局スル處逆賭スヘカラサルモノアリト雖
モ生絲貿易ノ前途ハ洋々トシテ春海ノ如シ庶幾クハ會員諸君今茲ノ成
績ニ鑑ミ益々斯業ニ精勵シテ改善發達ノ實ヲ舉ケ以テ斯會開設ノ趣旨
ヲ貫徹セシメラレンコトヲ一言ヲ陳ヘテ告辭トス
大正五年十月十七日

大日本蠶絲會々頭從二位勳一等
子爵 清浦奎吾

蠶絲ハ我邦輸出貿易ノ首位ヲ占メ之ガ消長ノ繁ル所經濟上至大ナル關
係ヲ有セリ而シテ客年以來歐洲ノ戰亂ハ我輸出貿易ニ未曾有ノ好影響
ヲ來シ蠶絲モ亦極メテ良好ナル成績ヲ收メツ、アリ此機ニ際シ大日本
蠶絲會德島支會ハ本縣斯業ノ中心タル川島町ニ第二回品評會及製絲工
女競技會ヲ開設シテ當業者ヲ激勵セムトスルハ洵ニ機宜ニ適セル措置

ト謂フベシ

惟フニ今次貿易ノ好調ハ戰役ノ反響ニ過キスト雖此機ヲ利用シテ一層
斯業ノ發達ヲ期スル要アルノミナラス輒近爾實ノ改善飼育ノ進歩並ニ
製絲技術ノ向上等當業者ノ最モ考慮スベキ問題一ニシテ足ラス然カモ
之ヲ解決スルノ途唯之ガ研究ト努力トニアルノミ這回品評會及競技會
ヲ開設シテ優劣相比シ進否相較シ以テ斯業ノ改良ニ裨益ヲ與ヘムトス
ルモノ蓋シ此趣旨ニ外ナラズ當業者タルモノ深ク審査ノ成績ニ鑑ミ益
々發奮シテ本會開設ノ効果ヲ收メンコトヲ望ム
大正五年十一月十七日

德島縣知事正五位勳四等 末松借一郎

次テ各郡長總代松浦麻植郡長、縣會議員總代武知加之吉、蠶種同業組
合長福岡吉次郎、繭絲同業組合長生田和平、川島町長澤田兼太郎諸氏
ノ祝辭並ニ品評會受賞者總代須見信太郎、競技會受賞者總代山本ア
子、有功章授賞者總代佐光貞中諸氏ノ答辭アリ、終丁ヲ告ケタリ尙
麻植郡農會長工藤半平、麻植郡町長會長、鴨島町長川真田鹿太郎兩氏
ハ祝辭ノ朗讀ヲ省キ之レヲ寄贈セラレタリ

祝辭

蠶絲業ノ盛衰ハ我國家經濟ニ至大ノ關係アリ從テ農村ノ興廢ニ影響ス
ル所多ク且歐洲戰亂突發以來世界經濟界ノ激變ニ伴ヒ斯業ノ改良發展
ヲ促スノ氣運急ヲ要スルノ秋ニ方リ大日本蠶絲會德島支會ハ第二回品
評會ヲ開催シ出品點數三千餘ノ多キニ及ヒ斯業發達ノ光景歷然タルヲ
見ルハ實ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ
惟フニ當業者能ク審査ノ成績ニ鑑ミ以テ斯業ノ改良發達ヲ圖ラバ當ニ
各自ノ生産ヲ増加スルノミナラズ延ヒテ國家經濟上ニ影響スルコト蓋
シ尠ナラザルベシ
本日褒賞授與ノ盛式ニ列スルヲ得欣喜ニ堪ヘス一言以テ祝辭ト爲ス
大正五年十月十七日

德島縣各郡長總代
麻植郡長 松浦 並 雄

祝辭

大日本蠶絲會德島支會第二回蠶絲品評會ヲ開催シ本日褒賞授與ノ式典
ヲ舉ケラル、ニ當リ不肖其庶末ニ列スルヲ得テ祝詞ヲ呈スルハ洵ニ光

從來本縣ニ於テ此種ノ品評會ハ屢々開催セラレタルモ今回ノ如ク其出品區域ノ廣汎ニ亘リ其出品點數ノ多數ニ上リタルハ未ダ嘗テ見サル所ナリ而シテ斯業ノ消長ガ如何ニ國家經濟ニ多大ノ影響アルカハ費スルノ要ナク只此盛況ニ接シテ邦家ノ爲衷心欣喜措ク能ハサル所ナリ出品物ヲ一瞥シテ之ヲ往時ニ比スレハ進歩ノ跡歴然トシテ殆ント隔世ノ感アルモノアリ

コレ營業諸氏カ刻苦精勵ノ賜ニシテ其勞誠ニ多トスベシ然レトモ之ヲ推シテ將來ニ及ホセバ時勢ハ刻々進歩シテ須臾モ止マルモノニアラス一時ノ安キヲ偷ムヘキモノニアラサルヲ知ルベシ乃チ今回ノ狀況ニ鑑ミ所謂採長補短、長ハ益々其長ヲ發揮シ偶々賞ニ漏レタルモノモ更ニ激勵シテ他日ノ成功ヲ期シ國家ノ爲メ益々斯業ノ發展ヲ圖ランコトヲ希望ニ堪ヘザルナリ一言ヲ述ヘテ祝詞トス

大正五年十月十七日

德島縣會議員總代

武知 加之吉

祝 辭

大日本蠶絲會德島支會第二回蠶絲品評會ヲ開催セラレ本日ヲ以テ褒賞授與ノ式典ヲ舉行シ不肖亦此盛式ニ列スルコトヲ得タルハ誠ニ欣喜ニ堪ヘサルナリ

凡事業ノ改善發達ヲ圖ルニ其最モ直接ニシテ捷徑ナルハ品評會又ハ共進會等ニ若クモノナカルヘシ

今ヤ出品物ヲ參觀スルニ全國ノ優良品類集テ一堂ニアリ其審査品評ノ結果ハ一般當業者ヲ裨益スル所大ナルヲ信ス亦本會ヲシテ如斯盛大ナラシメタル當局者ノ勞ヲ感謝シ尙今回ノ授賞者素ヨリ之ニ甘ンスヘカラス其賞ニ漏レタルモノ亦之ニ屈スヘカラス希クハ將來益々相共ニ競進シ以テ蠶絲業ノ發展ニ力メラレンコトヲ聊カ蕪言ヲ陳シテ祝詞トス

大正五年十月十七日

德島縣蠶種同業組合

組長 福岡 吉次郎

祝 詞

本日大日本蠶絲會德島支會第二回品評會並ニ製絲工女競技會褒賞授與式ヲ舉行セラレ、ニ方リ席末ニ列スルヲ得タルハ深ク欣幸トスル所ナリ

惟フニ本縣ノ蠶桑製絲ノ業ハ近年長足ノ進歩ヲナセリト雖尙改良發展ノ餘地頗ル多ク前途極メテ多端ナリト謂フベシ此秋ニ方リ當支會ノ特ニ品評會並ニ製絲競技會ヲ開催セラレ斯業ノ改善進歩製絲技術獎勵ノ舉アル本縣產業ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘス而シテ本日我組員中多數ノ受賞者ヲ出セルハ獨リ當事者ノ面目ノミナラズ亦我組合ノ榮トスル所ニシテ欣快措ク能ハザルナリ希クハ受賞者諸氏益々奮テ斯業ノ爲ニ研鑽努力以テ今回ノ盛舉ニ酬ユルトコロアランコトヲ一言以テ祝詞トス

大正五年十一月十七日

德島縣蠶絲同業組合

組長 生田 和平

祝 詞

近時我邦蠶業ノ發達ハ駭々乎トシテ底止スル所ヲ知ラズ且蠶兒種類改良ノ聲滔々トシテ起ルアリ蠶業ノ指導獎勵ハ層一層緊切ナルヲ認ム

大日本蠶絲會德島支會ハ茲ニ見ルアリ第二回蠶絲品評會ヲ我町ニ開催シ全國ノ蠶業成績ヲ一堂ノ下ニ展覽セシメラル其出品點數頗ル多ク且優劣審査ノ結果ヲ發表シテ當業者ノ採長補短ニ資セラル、所亦渺カラズ是レ斯業ノ爲慶賀ニ堪ヘザルナリ又本會開催ノ爲多數貴紳顯官ノ來臨ヲ辱フシ我町未曾有ノ盛況ヲ見ルニ至リシハ深ク感謝スル所ニシテ亦實ニ欣喜措ク能ハサル所ナリ本日褒賞授與ノ式典ニ當リ不肖末班ニ列スルノ光榮ヲ得欣喜ノ餘リ蕪言ヲ陳ヘテ祝詞ト爲ス

大正五年十月十七日

德島縣麻植郡川島町長 澤田 兼太郎

答 辭

茲ニ本日ヲトシ大日本蠶絲會德島支會第二回品評會褒賞授與式ヲ舉行セラル、ニ際リ不肖等其席末ニ列スルヲ許サレ且ツ賜フニ榮譽アル褒賞ヲ以テセラル光榮何物カ之ニ過キム加之貴賓各位ノ誨告ヲ辱フシ斯業改良上多大ナル裨益ヲ與ヘラレ以テ將來ノ指鍼ヲ示サレ不肖等之ニ應フベキ言辭ナク唯教諭ノ精神ニ背カザラムコトヲ期シ今日ノ榮譽ニ

答へムコトヲ答フ
聊カ蘇解ヲ陳ヘ謹テ答辭トス

大正五年十月十七日

大日本蠶絲會第二回品評會
受賞者總代 須見信太郎

答 辭

大日本蠶絲會德島支會ノ催シニテハシタナキ妾等ノタメニ、製絲競技會ヲ開カレ、今日ノ日ヲ定メテ褒賞授與ノ式ヲアケラレ、貴キ方々ノスニハベリテカストノオシヘラ玉ハリシノミカハ、タフトキ褒賞ヲタマハリ身ニ餘ルホマレノホドマコトニコタヘマスヘキミチナクタク、今ヨリ後々ツ、シミテミオシヘヲ守リ、ハヘアル今日ヲ忘ル、コトナク、イヨ、ワザニハケミテ、アツキ御恩ニコタヘハベラム
大正五年十月十七日

大日本蠶絲會第一回製絲競技會

受賞者總代 山本あい子

答 辭

本日本蠶絲會德島支會第二回蠶絲品評會褒賞授與ノ盛式ヲ舉行セラル、ニ際シ不肖等名譽ナル有功章ヲ授與セラル洵ニ無上ノ光榮ナリトス

一層奮勵努力以テ蠶絲業ノ發達ヲ圖リ本日ノ榮譽ニ酬ヒ奉ラントス
茲ニ有功章受節者ヲ代表シ答辭ヲ呈ス

大正五年十月十七日

有功章受領者總代 佐光貞平

第八 受賞入格

受賞者人名

特別優等賞

阿波郡八幡町

須見信太郎

優等賞

春 赤 熟

春 黃石丸 麻植郡牛島村
春 青 熟 麻植郡小口組養蠶部
生 絲 名西郡石井町 東生社製絲所

期節	名 稱	住 所	氏 名
春	掛合赤熟	美馬郡貞光町	井原貞吉
同	三龍又	麻植郡山瀬村	藤成ヨシエ
同	黃石丸	愛知縣東春日井郡鷹來村	河田悦次郎
同	同	麻植郡牛島村	石田一平
同	改良又昔	那賀郡加茂谷村	清住儀之助
同	犬頭又	愛知縣東春日井郡高藏寺村	松浦 皎
同	同	同縣北設樂郡三輪村	青山喜一郎
同	千回白龍	麻植郡山瀬村	大栗常一
同	同	山形縣西村上郡西吾川村	志藤 豊治
同	掛合 熟	熊本縣球磨郡深田村	吉谷 正一
同	熊原四號	名西郡神領村	岸 龜三郎
同	金一號	熊本縣鹿本郡廣見村	鬼塚 政記
同	掛合肥後錦	愛知縣額田郡岡崎町	犬頭館蠶業研究所
同	名古屋黃石	麻植郡鳴島町	藤井 各立
同	三龍又	名西郡神領村	大南弘史
同	金頭又	愛知縣碧海郡六ツ美村	伊藤重次郎
同	信一〇五號	板野郡北島村	川端種次郎
同	掛合青熟	三好郡加茂村	七田 新助
同	黃石丸	同郡三野村	平尾 萬平
同	掛合大錦	同郡加茂村	元木政太郎
同	三龍又	阿波郡八幡町	高岡延太郎
同	昔	三好郡三野村	平尾久太郎

期節	名	住	所	氏名
秋	國大支那	愛知縣幡豆郡吉田村	岡田貞次郎	
秋	特二十號	群馬縣佐波郡島村	田島祥次郎	
秋	掛合長白龍	阿波郡林村	前田林平	
春	黃石丸	麻植郡鳴島町	鈴木カメ	
秋	掛合長白龍	同郡同町	後藤田孝正	
春	赤龍	長崎縣南高來郡加津佐村	松田龜吉	
秋	三龍	麻植郡鳴島町	松本與藏	
秋	掛合青熟	京都府何鹿郡中筋村	加藤榮吉	
春	三龍	三好郡三庄村	横山富之助	
春	黃石丸	名東郡國府町	鎌田幸藏	
同	三龍	麻植郡鳴島町	北村一八	
同	ハル	愛知縣幡豆郡横須賀村	米津吉之助	
同	黃石丸	名東郡上八万村	由良又次郎	
秋	日本錦	長野縣下伊那郡會地村	下原石太郎	
春	愛黃い號	愛知縣八名郡八名村	小柳津準次郎	
同	黃石丸	那賀郡加茂谷村	安井吉次郎	
同	肥後錦	熊本縣上益城郡廣安村	福島三五郎	
同	掛合大青	麻植郡川島町	佐野柳吉	

二 等 賞

蠶種ノ部	生	桑苗	
秋	一代掛合	板野郡大山村	福田清平
秋	一代掛合	板野郡一條村	村部久次郎
春	赤代掛合	名西郡神領村	大南德三郎

桑苗	白	桑	名西郡入田村	篠原儀八郎
----	---	---	--------	-------

期節	名	住	所	氏名
同	金	勝浦郡棚野村	瀧本幸藏	
同	掛合銀世界	麻植郡川田村	大坪喜八郎	
同	掛合肥後錦	熊本縣鹿本郡田原村	平野勝衛	
同	三龍	那賀郡加茂谷村	坪内嘉五郎	
同	黃石丸	麻植郡牛島村	小原伊三郎	
同	掛合又昔	同郡山瀬村	花崎徳男	
同	名古屋黃石	同郡森山村	大久保朋一	
同	高砂	美馬郡岩倉村	佐藤高市	
秋	黃石丸	麻植郡牛島村	石田一	
同	同	那賀郡大野村	湯淺住太郎	
同	同	同郡桑野村	湯淺林平	
同	同	同郡新野町	久米光太郎	
同	同	三好郡辻町	國安義近	
秋	青熟	阿波郡柿島村	中西邦太郎	
秋	掛合	三好郡加茂村	吉岡要藏	
秋	三龍	那賀郡加茂谷村	三馬安太郎	
同	又昔	阿波郡伊澤村	瀨尾利九郎	
同	銀	同郡八幡町	宮内ツルエ	
同	黃石丸	名東郡上八万村	吉本字三郎	
同	同	阿波郡土成村	八田忠二	
同	同	愛知縣栗原郡栗原村	今井繁太郎	
同	同	那賀郡椿村	加藤周之	
同	同	阿波郡久勝村	重清龜平	
同	同	愛知縣東春日井郡鷹來村	伊藤政一	
同	同	美馬郡貞光町	阿佐安一	
同	同	麻植郡鳴島町	鈴木繁藏	
同	同	同郡川島町	佐野秀子	
同	同	三好郡晝間村	高田龜三郎	
同	同	板野郡里浦村	宮内治重	
同	同	阿波郡土成村	稻井芳太郎	
同	同	名東郡上八万村	中村國太郎	

蠶絲業ニ關スル經營方法成績ノ部

期節	名稱	住所	氏名
春	愛黃熟	愛知縣東春井郡篠岡村	龜谷均
秋	青熟	神奈川縣高座郡澁谷村	保田太市
春	ドローム	麻植郡鴨島町	鈴木利吉
秋	掛合青熟	愛媛縣上浮穴郡仕瀬川村	東雲館
同	千回白龍	麻植郡鴨島町	後藤田チカラ
同	青熟	同郡川島町	後藤田茂子
春	又昔	三好郡箸藏村	伊丹和太藏
同	同	同郡三庄村	田村貞吉
同	同	那賀郡大野村	廣瀬松吉
秋	同	勝浦郡勝占村	佐川佐一郎
春	同	麻植郡牛島村	江戶武覺
同	同	同郡川島町	堀江常一
同	同	美馬郡半田町	川口常吉
同	同	名東郡北井上村	中村利吉
秋	青熟	麻植郡鴨島町	鈴木英一
春	又昔	阿波郡八幡町	後藤田佐藏
同	同	同郡林村	酒卷芳美
同	同	三好郡辻町	岡本伊藤太
同	同	愛知縣東春日井郡鷹來村	河田養蠶場
同	同	麻植郡學島村	金子義一
同	同	三好郡三繩村	山田朝一
同	同	名西郡神領村	近藤慶藏
同	同	那賀郡新野町	

名稱	住所	氏名
銀世界	福島縣伊達郡伊達村	石幡吉四郎
大草	那賀郡新野町	久米友成
金黃	名東郡上八万村	河原貞藏
名古屋黃石	板野郡北島村	富永藤吉
黃石丸	三好郡三野村	杉原實雄
同	同郡同村	續谷文三郎
同	阿波郡土成村	吉本美喜藏
同	同郡同村	日淺長三郎
國富	麻植郡牛島村	藤井一博
掛合赤熟	美馬郡半田町	武田元一
金黃	名西郡藍畑村	武知倉藏
同	同郡神領村	栗飯原多平
三好郡藍園村	三好郡藍園村	島本喜平
板野郡藍園村	板野郡藍園村	三好敏春
生絲	宮城縣伊具郡館矢間村	山本丈吉
同	福島縣伊達郡伊達崎村	佐藤六左衛門
同	福島縣伊達郡伏黒村	羽田嘉助
同	山形縣西置賜郡蠶桑村	丸川銀内
真綿	麻植郡鴨島町	松浦左右平
同	名東郡加茂名町	小口卷太
同	麻植郡鴨島町	筒井直太郎
桑苗	山形縣東置賜郡高島村	戸田孫六
同	名西郡入田村	森本八百吉
同	同郡同村	高橋住衛

製絲工女競技會受賞人名

優等賞	福田製絲所 富岡ウメ	東田製絲所 高橋スミエ
一等賞	小口組德島製絲所 山本アイ	東田製絲所 市川イチ
二等賞	岡本製絲所 武内ツルノ	元木製絲所 南キクエ
三等賞	小口組德島製絲所 山本ヒロヨ	小口組德島製絲所 西村フジエ
四等賞	佐光製絲所 栗栖タネノ	小口組德島製絲所 戸田カン
特別優等	東田製絲所 瀧上ツヤカ	小口組德島製絲所 都築フジ
特別優等	小口組德島製絲所 石川小梅	岡本製絲所 岡田マサノ
特別優等	小野製絲所 稲葉ヒサ	小口組德島製絲所 二條クニ
特別優等	東田製絲所 邊見マサエ	佐光製絲所 石田ヤス
特別優等	新野製絲所 井原クラ	小口組德島製絲所 山橋サダエ
特別優等	東田製絲所 岡本タマノ	小口組德島製絲所 米津ユキノ
特別優等	小口組德島製絲所 藤井キク	佐光製絲所 岡田ミチエ
特別優等	小口組德島製絲所 佐藤トクノ	小口組德島製絲所 山田ヨリエ
特別優等	笠井製絲所 村本キヌ	小口組德島製絲所 横島マツエ
特別優等	笠井製絲所 清水マス	小口組德島製絲所 堤キヨ
特別優等		笠井製絲所 都築カツエ
特別優等		笠井製絲所 芝田カン
特別優等		笠井製絲所 入交トメ
特別優等		笠井製絲所 鎌谷フジ
特別優等		笠井製絲所 山田カツミ

郡市別受者賞數

等級	特別優等	優等	一等	二等	三等	計
德島	1	1	1	1	1	5
名東	1	1	1	1	1	5
勝浦	1	1	1	1	1	5
那賀	1	1	1	1	1	5
海部	1	1	1	1	1	5
名西	1	1	1	1	1	5
板野	1	1	1	1	1	5
阿波	1	1	1	1	1	5
麻植	1	1	1	1	1	5
美馬	1	1	1	1	1	5
三好	1	1	1	1	1	5
縣外	1	1	1	1	1	5
計	10	10	10	10	10	50

等級	優等	一等	二等	三等	計
德島	1	1	1	1	4
名東	1	1	1	1	4
勝浦	1	1	1	1	4
那賀	1	1	1	1	4
海部	1	1	1	1	4
名西	1	1	1	1	4
板野	1	1	1	1	4
阿波	1	1	1	1	4
麻植	1	1	1	1	4
美馬	1	1	1	1	4
三好	1	1	1	1	4
縣外	1	1	1	1	4
計	16	16	16	16	64

等級	優等	一等	二等	三等	計
德島	1	1	1	1	4
名東	1	1	1	1	4
勝浦	1	1	1	1	4
那賀	1	1	1	1	4
海部	1	1	1	1	4
名西	1	1	1	1	4
板野	1	1	1	1	4
阿波	1	1	1	1	4
麻植	1	1	1	1	4
美馬	1	1	1	1	4
三好	1	1	1	1	4
縣外	1	1	1	1	4
計	16	16	16	16	64

等級	優等	一等	二等	計
德島	1	1	1	3
名東	1	1	1	3
勝浦	1	1	1	3
那賀	1	1	1	3
海部	1	1	1	3
名西	1	1	1	3
板野	1	1	1	3
阿波	1	1	1	3
麻植	1	1	1	3
美馬	1	1	1	3
三好	1	1	1	3
縣外	1	1	1	3
計	12	12	12	36

系統別	出品点数	第一審査合格点数	受賞点数	第一審査出品点数	第一審査合格点数
歐洲系白蘭	二七	二八〇	一六	二七	二八〇
歐洲系白蘭	二七	二八〇	一六	二七	二八〇
掛合白蘭	二八	二八〇	一六	二八	二八〇
掛合白蘭	二八	二八〇	一六	二八	二八〇
支那系白蘭	二九	二八〇	一六	二九	二八〇
支那系白蘭	二九	二八〇	一六	二九	二八〇
以上春蘭合計	一七九	一七九	一七九	一七九	一七九
交雜白蘭	一七	一七	一七	一七	一七
支那系白蘭	二二	二二	二二	二二	二二
在來白蘭	二二	二二	二二	二二	二二
以上夏秋蘭合計	二二	二二	二二	二二	二二
總計	二二	二二	二二	二二	二二

系統別	出品点数	第一審査合格点数	受賞点数	第一審査出品点数	第一審査合格点数
外國系蠶種	一六	一六	一六	一六	一六
掛合蠶種	一八	一八	一八	一八	一八
在來蠶種	一八	一八	一八	一八	一八
以上春蠶種合計	四六	四六	四六	四六	四六
掛合蠶種	三一	三一	三一	三一	三一
在來蠶種	一九	一九	一九	一九	一九
以上秋蠶種合計	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
總計	九六	九六	九六	九六	九六

蠶種系統別受賞一覽表

系統別	出品点数	優等	一等	二等	三等	褒狀	合計
外國系蠶種	一六	—	—	—	—	—	一六
掛合蠶種	一八	—	—	—	—	—	一八
在來蠶種	一八	—	—	—	—	—	一八
以上春蠶種合計	四六	—	—	—	—	—	四六
掛合蠶種	三一	—	—	—	—	—	三一
在來蠶種	一九	—	—	—	—	—	一九
以上秋蠶種合計	五〇	—	—	—	—	—	五〇
總計	九六	—	—	—	—	—	九六

第九 協賛事業及特別寄附者芳名

協賛事業及特別寄附者芳名

協賛事業、徳島支會第二回品評會開設に對し川島町實業協會は多大の同情を以て之れを賛し金壹百圓を投じて式場前、川島驛前の両所に各々大なるアーチを建設し又會場に通ずる道路の修繕を行ひ其他來會者待遇の意味を以て勝花角力、擊劍、柔道の試合、淨瑠璃等の餘興を催し尙會場の設備一切に關する斡旋を爲す等大に本會のため力を盡された

此外徳島市柏屋足袋本舖は品評會開催中毎日會場前に於て氣球を登揚して景品を撒布し參觀者に興を副へられ又本縣物産陳列場にては今期の品評會を期し第一回巡回展覽會を會場構内に開催し普く縣下の物産を紹介し日常雜貨品を公定相場に即賣し參觀者の足を留め家包を供給する等共に品評會に一段の光彩を添へられたり
特別寄附者芳名、今回品評會開催の舉を賛し之れが經費の一部に充當すべく金品を寄附せられたる芳名次の如し

特別寄附者芳名

蠶種製造者

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 石田龜太郎 | 尾賀正三郎 | 三宅秀太郎 |
| 平尾萬平 | 大寺武一郎 | 阿陪秀三郎 |
| 割石清助 | 横田純太郎 | 武田九郎次郎 |
| 福岡吉次郎 | 近藤嘉十郎 | 山野嘉平 |
| 横田登四郎 | 近藤滿太郎 | 宮内虎太郎 |
| 中村利吉 | 新居一平 | 大久保勇藏 |
| 工藤虎吉 | 淺野伊左衛門 | 戸倉愛吉 |
| 後藤田常太郎 | 村部久次郎 | 真鍋虎三郎 |
| 須見信太郎 | 川人兵太 | 日野秀之進 |
| 阿部速三郎 | 井上治 | 吉岡要藏 |
| 鈴木利吉 | 工藤長久 | 佐野柳吉 |
| 坂東佐喜太 | 林儀助 | 麻野瀧郎 |
| 佐藤爲三郎 | 谷村好三郎 | 小濱政吉 |

山田順太郎 松野昇一 工藤萬藏
 三宅幾太郎 原田庄平 尾上勝三郎
 田村重行 大西嘉平 勝瑞龜吉
 國見與五郎 後藤田嘉藏 富永藤吉
 折目高次郎 大塚忠三郎 大南國吉
 財田貞太郎 曾江孫平 野田ヤス

製絲業者
 山口卷太 松浦左右平 山本安次郎
 佐渡文右衛門 笠井專一 元木安次郎
 生田和平 岡本吉助 協町繭絲合資會社
 福田清平 安村角彌 小野直八
 筒井直太郎 内田岸太郎 三丹善吉
 佐光久平 玉井美二郎 渡邊直太郎

生繭賣買業者
 伊豫谷嘉次郎 大草五郎 安村善輔
 鰻淵儀平 榎本友三郎 後藤田基助
 宮内克巳 山口政藏 長谷卯三郎
 岡本安次郎 近藤榮太郎 中山宇太郎
 石井政助 後藤田市三郎 由良徳太郎
 芝高秀太郎 生田繁太郎 松村泰輔
 福田六三郎 森本惠助
 郷司治一郎 南忠助

養蠶業者其他特志者
 青木伊三郎 奥山文平 福家利平
 須見千次郎 松永儀太郎 武澤貞太郎
 山本常太 勝浦久太郎 大塚太平
 工藤源助 森甚五郎 三木儀八郎
 米倉利太郎 上原知恵太 笠井擴太郎
 割石貞二 妹尾喜代太 川井長市
 福島勝太郎 小野真四郎 板東梅次郎

扇田庫太郎 十川仙助 前田治平
 板東喜和太郎 岡本富藏 木村蠶具店
 川人直平 佐藤富三郎 馬宮濱吉
 重清龜平 佐藤彈平 甘利岩八
 竹内藤兵衛 笠井龜太郎 富永竹三郎
 林繁藏 四宮國平 宮田啓助
 村川祐一 安友協一 河野俊夫
 坂東順六 大久保查四郎 藤本伊勢吉
 富杉九平 阿波養蠶組合 田岡重次郎
 中西邦太郎 湯淺新七 高橋熊市
 筒井林平 笠井佐太郎
 楠金藏 笠井禮藏

第十 養蠶組合大會

養蠶組合大會狀況

蠶絲品評會褒賞授與式の翌日蠶業講話會後引き続き縣下養蠶組合大會に開きたり、養蠶組合長並に養蠶の共同施設を爲す農事団体長百餘名の出席あり、養蠶技術開會の趣旨を陳べ推されて議長となり左の二件を順次協議し何れも可決したり其後尙引き続き一代雜種普及團總會を開き主なる蠶種製造業者及製絲業者の出席あり品種選定に關する件を協議せり

- 記
- 一、生繭賣買に關する件
 組合員生産繭は上繭、下繭及玉繭に撰別し必ず貫立販賣を行ふこと
 - 二、縣下養蠶組合大會に關する件
 各組合員間に於ける意志の疏通を圖る爲毎年一回以上縣下養蠶組合大會を開催すること

第十一 蠶業講演會

九〇

蠶業講演會

蠶絲品評會褒賞授與式當日午後及翌十八日川島尋常高等小學校講堂に於て蠶絲業講演會を開催せり兩日共聽衆堂に滿ち頗る盛會にして十七日午後は加藤蠶絲會技師の蠶業經營に就ての題下に其蘊蓄を傾けられ翌十八日増田生絲検査所技師の出品生絲に就ての所感藤岡京都高等蠶業學校助教の黃繭問題に就て高鳥蠶業試驗場綾部支場長の一代雜種に就ての題下に客々有益なる講演あり聽衆に多大の感動を與へたり左に其要領を摘録して參考に資すべし

一代雜種に就て

蠶業試驗場綾部支場長 高鳥容孝氏

自分は大正二年十月徳島市に來り當時交配種熱勃然として盛ならむとするの勢ありたるを以て急激なる變化を作らぬ秩序ある進歩を望み置きたり、尙生絲の織度に就て意見を述べたるを記憶す今回は一代雜種に就て述べんとす

自分等は單に交配種なる漠然たる語を用ふるの適當ならざるを信するものなり、何となれば交配とは雌雄交合と云ふことなり、此交合は昔より高等動物に必ず之れあり、以て異種交雜の意を表す能はざればなり

蠶業試驗場として獎勵に着手せるものはさる漠然たるものにあらずして、一代雜種なり、この雜に注意せられたし、明治四十年頃農學博士外山龜太郎氏は學問上より一代雜種の價値を論せられたり、然れども當時は何等反響なかりしが只今藤岡氏の述べられたる如く品種改良の要望と共に大正二年頃より急激に増加し益々喧傳せらるゝに至れり一代雜種とは如何、雜種の雜が肝甚なり先刻參考館に蠶具を以て作りたる櫻の木(交雜樹)と二人の娘を見たり父の系統は何、母は何云々と説明あり、之れ即ち名前の生する所、甲と乙との別種を掛合すことによりて、一代雜種と稱するなり

甲 \times 乙 一代雜種 普通にE1と書く

即ち一代雜種は雌雄種類の異りたるを要す、單に異りたるのみにあ

らず、系統の純なるを必要とす、然るに實際純粹は極めて尠なし極端に云へば殆んど無しと云ふも不可なしと信す

乙 \times 丙 子 \times 乙 之は復雜種と云ふ

蠶業試驗場に於ては大正三年末より斷然一代雜種獎勵の方針を採りたるが大に一般の歡迎を受け急激に廣まり原種の精選の出來ざるに早く已に其要求盛となりたり

今回出品を見るに支那種と歐洲種の掛合に日本種の血の混したるもの等復雜種と見るべきものを齊しく交配種と呼べり、交配種には相違なきも一代雜種とは自ら區別するの要あるを知らざるべからず勿論交雜にも色々の方式ありて實用上より見れば必ずしも嚴正なる一代雜種に限ると斷定するの要なけれども此處では只名稱の意味に就て云ふのである

白繭雜種中笹繭の現はれたるあり此笹色の繭は決して悪しきにあらず、笹繭は却て繭層の厚きもの多し、笹繭を調査するに十中其六七は雜繭なり、又二化性と一化性を掛合せは笹が出勝ちなり笹色の出でる爲に良し悪しと云ふにはあらざるも日本種と支那種と掛合したる場合一代雜種は全部白繭にして笹色の出づるものは少なし、然るに多く笹の出で居ること並に繭形等より察するも片相手は多分三龍又位を使ひたる復雜種なりと思はる、斯の如くなれば仮令片相手は純粹種なるも成繭は一定に揃ふものにあらず

一代雜種にありては色澤形狀乃至織度等に於ても餘程よく揃ふことは經驗の結果得たる事實なり、然れども復雜種或は孫の時代即ちE2となれば復雜に分離し祖先の性質が別々に現はれ父に似或は母に似、中間の性質も現はれ形狀織度縮皺等甚だ不揃ひとなるものなり、黃繭は品評會場にて見たるが一代雜種と稱するを得るは誠に尠し名西郡の出品は大体揃へるが如きも嚴正なる意味に於ける一代雜種は尠し、

黃繭には肉色と黄色の二あり、密柑の如き金色のものは本邦種に秋田金黃あり支那種の金黃等之に屬す、伊太利語で之をオロ「Auro」云ふ他は肉色にてヂャロ「Giallo」云ふ

原蠶種製造所出品のキネヤ、オロ、ブー「Chinese, AroPuro」云ふは純粹支那金黃種の意あり、近時蠶の名稱多數となり其名の實際の一致せぬもの多し、爲に少しく述べん

支那金黃の特長は繭の表面黄色なるも内側は淡し、ジャロは繭の表面淡くして内側は濃黄色なり、黄石丸はジャロとオロとの掛合と思はるれども、然し只今の黄石丸と稱するは複雜種なれば、肉色、黄色、中間色等を混す、

一代雜種ならば色に多少の濃淡は免れざるも大体齊一なること原蠶種製造所の出品に見るが如し

交雜種に就て種々の意見を耳にせるが當地の東生社より織度に就て其幅廣くして繰絲上生絲の織度を揃へるに困難なりと承れり、之れ思ふに本縣は多く複雜種を飼育せるが故に歐に似或は支に似る等細太各種に分離せるが爲めならむ

現今は各種に分離して揃ひ難き複雜種を飼育せんよりは一代雜種を作るに止めて可なり、

然し乍ら、複雜種中より新たな性質を有するものを撰出し固まりたる上にて之を基礎原種とするは可なり、彼ら分離白の如き數代撰出し固まりたるものとなれば之を基礎原種に用ひ一代雜種と云ひ得べし

一代雜種は純粹の両親を用ひて初めて可なり織度の開きや其他不齊は畢竟不純の親より來るものと見るべし、而して日本の鶏にも又犬にも純粹種少しか如く原種の純粹を得るは甚だ困難なる事なり、故に試験場より今日配付するものと明年配付するものは同名のものにても其實質は同一にあらず年と共に改良し進歩する者なるや云ふ迄もなし

近時英語ならば大抵の人に通ずるも伊語佛語に至りては通ぜざるもの多し、出品繭中の「インクロックチャイニス、オロ」や「ポリジャロ、エキストラ」等は皆雜種なり、「ポリジャロ、エキストラ」はポリジャロ、中の優良種の意なるべきも斯かるものは其純系なるを認めたるものにあざれば原種としては先づ以て不適當と云はざるを得ず之れ掛合種なればなり

只今は單に交配種と稱へても玉石混同せるは是非なしとするも願はくは眞の一代雜種を作りて幸ひ逸早く成立せる一代交雜種普及團等は

大に斡旋して養蠶の收益を多からしむることに努められたし
尙繭の取引について一言せんか、昨年度某縣に於ける模様を聞けるに當初製絲業者は交雜黃繭を買入ると約束し乍ら、收繭期に至り言を左右に託して之が買入れを爲さず、而も乾繭場は悉く製絲業者が借

受け種々口實を構へ發蛾に迫りて養蠶者の當惑に乗じ安く買入れたりの情報あり、甚だ慘酷の遺り力と云はざるを得ず、然るに其後同縣製絲業者は黃繭種を否認するかなどと縣廳へ質問書を出さんと敦圀けり云ふ、自分をして若し縣當局ならしめば、何故昨年斯かる惡辣手段を講じたるか、何故乾繭場を買占めて養蠶者の弱点に乗ずるが如きことを敢てしたるか今何の顔提げて黃繭種を否認するかなど云ふかと大に其悲を責めんと欲す、

一体製絲家として養蠶家を改良するは假令間接なるも多大の利益あるものなり、此信念を以て養蠶業を開發し指導せざる可らず、養蠶者も亦一旦或製絲家と約束したる以上は優繭を産せば之を他に鬻ぎ粗惡の繭のみ引き取らしむるが如き不徳儀をなす可らず乃ち斯業前途の大計の爲に自分も利益を得相手も亦利益を得相互に相利することとならざれば不可なり駆引あれば一方利を得れば一方必ず損あるべし賣買の間に甚しき損得を生ずれば秩序ある堅實なる發達を望み得べからず尙自分としての領分を越ゆるが如きも輸出生絲の織度に就て一言せん、

從來輸出生絲は十四半位の太絲の賣行き良かりしも今後輸出の増加すれば其れだけ細絲を造る必要ありと云ふ者あり、自分も一理ありと考へたり然るに實際調査したる結果近年輸出生絲は細物減じて太物却て増加せり、之れ細物は主に歐洲向なるが故に歐洲戰爭の結果減じたるかど云ふに必ずしも然らず戰爭は大正三年七月より起りたるに細絲は大正二年より漸次減少せり之れ如何なる理由なりやと云ふに戰爭も多少の影響なきにあらざるも東洋經濟新報記者の見たる所肯綮に當れるものと云ふべし、即ち細絲は上等の絹を造り上等の絹は上流人士に用ひらる、米國に於ける絹織物の需用も初めは上流より起り漸次中流下流に及ぼせり、然して今後上流にはより多く絹を増さざるべきも中流以下の需用は益々多からむ然らば即ち需用の増加するは細絲にあらずして中流以下の需用に應ずる太絲なり、日本今後の生絲は矢張り十中四位のものが盛に輸出せらるゝに相違なし、隨て一粒の織度二、八デニールとすれば五粒つけを標準とすべく三、デニール以上ならば稍太きに過ぎ二、五デニール以下となるも亦不可なり其開きは二、五乃至三、デニールの間を往來するを適當とす、此点に就ても製絲家の注文

一代雜種は大体斯の如きものにして其成繭は複雜種と異り繭形繭色縮皺も將織度も揃ふの特長を有するものなり而して之れが組合せに就は今日京都府に行へる一代雜種の如きは第一の試みにして即ち赤熟と清二十號の掛合を以て永久に最も優良なりと云ふべきにあらず差し當り代りの出来るまで行へるものにして隨て良種を見出し次第取替へるに躊躇するものにあらず

尙黃繭種に就て一言すべきことあり、黃繭の原種は白繭種より病毒多きこと是なり、勿論敢て危儉多しと云ふにあらざるも、黃繭種は病毒に對し蟲質較々弱し之は生理の上より説明は無きも飼育の實際上強からざるは事實なり取締所に於ても一段の注意を要し當業者亦心を茲に用ひ蠶種の選擇及毒の驅除豫防に注意せざるべからず轉ばぬ先の杖として敢て一言するものなり。

所感を述ぶ

大日本蠶絲會德島支會第二回品評會

審査長 増田由之氏

當品評會は已に審査終了を告げ本日褒賞授與式も済み夫れ／＼等級を定められたのである、自分は其審査に従事したる關係からして其出品生絲と横濱市場生絲との對照に就て一言述べたいと思ふ

品評會の出品生絲と商品生絲との見本とは如何なる關係ありや、吾々はそれに就て深く講究せねばならぬ商品見本はその商品の代表となるべきもので即ち品質に於ても整理の方法についても少しの差異なきものであらねばならぬが、品評會出品生絲は生産者の技倆そのものを遺憾なく發揮したものを提供したもので所謂代表物を意味するものでない、だから商品見本にして一度賞に入らんか、その生産者の手に成つた物品は客足繁く其價は昂上に昂上を加へるけれども品評會出品生絲は假令選に入つて賞を受くても、その生産者の手に成つた物品の價値には何等の變化を生ずるものでない、今日の品評會に月桂冠を得た生絲は必ず横濱市場に於ける聲價も同様のものであると思はぬ、又之れと同時に選に洩れたる生絲の價値は市場に於ける、それと同様でないと思はれる此点に於て私は製絲當業者に向つて今一步進めて

品評會出品生絲なるものをして、たゞ出品したと云ふだけの意味を以てせず自らが商品の代表なりとの思ひを致し技術上に實用上に何れの方面より觀察するも何等批難を受けないものを出品する様に努力を俟つものである、換言せば品評會出品物は當座の出品にあらずして市場に出すべき永久のものである様に心掛けねばならぬものである、輸出品と稱するものは内にあつても外にあつても品質或は状態等に妙しの變化のあつてはならぬものである先月の製品と今月の製品とが同一のものでなく此荷口と彼の荷口とが異つた品質のものであつたならばそれは已に價値の確定せぬものであることは論を俟たないことであらう、我國輸出品の最も多數を占むる生絲、之れを造り出す當業者は大に反省せねばならぬ事である、

近來黃繭種の飼育が盛になり従つて黃絲の輸出が漸次多きを加へて行く様になつた、黃繭より繰り取つた絲と白繭より繰り取つた絲とは如何なる点に於て得失あるか、それは既に世の識者によつて論議せられ今更此處に詮議立てする必要はない、けれども徳島縣の製絲家は黃繭の需用頗る多く、此方も彼方も黃繭と黃絲とと重寶がられるところを見てはそこに何等かの感じが起らざるを得ないのである、元來黃繭は白繭に比し(一)繰解佳良なること(二)輪類寡きこと、(三)強力仲度大なること(四)絲量豊富なること等に於て大に優れてゐる、故に此處に考を及ぼして繰絲をなすは甚だ宜しけれども人稍もするご猫も杓子も黃繭にあらざれば萬事休すと云ふものが少なくない或は黃繭であれば其成品の値段が少しは安くても工費の關係から却つて利益多いものなり等ごスマシ込んでゐて品種其物に就て大なる研究をなさぬ者が多くはあるまいか、それが爲に或は失敗を招いて再び起つ能はざる者があり或は黃繭の賣れ行きの鈍きを觀じては黃繭をして何等價値なきものと断定するものがある、之れが延いては製絲家をして前途の方針に迷ひを生せしめ來る年に於ては白繭を繰絲すべきか黃繭を購入すべきかと、其探るところを躊躇せしむる傾向がある様に思はれるのである、現に徳島縣下の製絲工場を視察すると小さい工場ですら一方に黃繭を繰り取りつゝあるかと思はれば他方には白繭を繰絲して居るものが見受けられた、同一の經營者しかもそれが小さな工場に於て斯の如く黃白繭の混同繰絲を敢て願ないのは畢竟前に述べた様なことに基因

してゐるのであらうけれどもそれは職業の暇もなく改良の餘地もなく又之れを好愛する心情の湧き出づる時間もあるまい、然しながら黄白の繭を同時に生絲となし同時に横濱市場に提供し之れが評價に基いて黄白何れを採擇せんとするかと思はれないかと思像するのである。「二兎を追ふて一兎を得ず」の愚を習いたくないものである、黄白繭何れを取るもよいか當業者は自分が辿るべき一定の方針を採つて一意専心それに努力すべきである、統計によるとイタリー、フランス兩國からアメリカに輸入せらるべき黄絲は年々貳萬七千俵以上を算し米國輸入高の一割三步を占むと表されてある、けれども歐洲戦争は未だ終局を告げぬので生絲の輸出量は漸次減少しつつある我國黄絲の需用が著しく増加して其穴填めをなすことになつた様な譯であるが此の状態が果して永久に繼續すべきか又戦後の影響がどんな結果を齎らすかは到底今より知ることは出来ないものである、故に世界の大局を究め需給の調節と連絡を圖るは甚だ肝要のことであると思ふ

そこで養蠶家と協力して、良品種の飼育に努め善い原料を求め、これを周到に繰絲すべきは勿論のことであるが更に輸出者に協商し製絲の方針を定め需給の連絡を滑かにせば繰絲の進歩を促し斯業の安全を保護する良方法と考へます、此方法を以て變することなく永久に持續せば已に製造したる生絲は黄色たると白色たるとを問はず其需要は減退をなすことはなからうと信じて止まないものである、要は製絲當業者の奮闘努力にあると斷言したい、反省せざるべけんや

一流の水一樹の蔭とやら主の位置に立ちて監督する製絲業者も從の立場にあつて繰絲に従事する工女も何等かの因縁によるのであらう、主と從とが心を一にせず自らが思ひの儘に振舞つたならばその結果は不良なることは對岸の火を見るより明かなことであるが、どうかするとその轍を履む者があつて今際の時に及んで工場經營は思ひのまゝにならぬもの、かこつて聞くのは甚だ遺憾の至りである、實に製紙經營は監督者と從業者との精神が互に融和團結によつてその實を擧ぐることが出来るものである、凡そ人は感化を與へる力と感化を受ける力を持つてゐるのであります、故にお互に人は善い感化を施す者とならねばならぬと同時に善い感化を收める者とならねばならぬ、工場を管理する者は常に工男工女の利益を増進する方法を考へねばならぬ、工男工女

は亦常に製品の聲價を高め場主の信用を掲げんが爲に努力せねばならぬ、彼情と此義との連鎖が結ばれたとすれば、工場内の製品は此品評會出品生絲と同様に立派なる物を得るのみならず商品生絲として横濱市場の高評を博するは疑なきことであると思ふ

一人一度生れて慾を知らぬ者はない、而して其慾には種々、あるのみならず、之を求むるに急ぐとがある斯く慾望の轉換接し來つた場合には他の必要事を忘れることが往々ある私は自分の業務に従事して正午の食事時間を過すことがあるが若し空腹を覺へ食慾を感じたならば仕事の進行は遅く過誤を生じ易いことを實驗しました又私は出勤前に病人のごと、其他哀愁不平怨言等を聞き込みたる時は執務中屢々考慮を之に奪はれたり又其哀愁怨怒を人に移すことあるため作業を敏活に進捗するを妨げたことがある、製絲工場では正午の繰り終り頃には細班が出来なかつたが又は繋ぎ節が太くはなかつたか又は仕事始めに教婦から小言を聞いたとて其不平が作業に移りて或は、デニールが太くはならなかつたか、今日爾後臨時休業を爲し工男工女擧つて川島町に品評會に來られたようだが當時の生絲には或はデニールが太く出來はしなかつたか又はズル節の整理を忘れはしなかつたか夫れ人の心理作用は妙なものでも喜んで怒つても又は悲んでも仕事の調子を仕掛するところがある、それで各心の持方に就て修養するは大に必要であると思ひます生絲の製造は機械の力に依ると善だ少ないもので實に工女の指頭の妙用に俟つのみである又工女の知恵の善用が支配するものである、即ち指先の妙用と知恵の善用とに依りて初めて佳良なる生絲を造り出し従つて工場の信用を發揚するに至るものであれば決して之を等閑に附することは出來ぬ、此点に向つては大に工女の奮勵を希ひ益々力を盡し意をつくして其業務に従はんことを望む次第である

一多濕期に繰り上げたる生絲は類節多く強力少いが爲めに其再繰中は切斷し易いと云ふことは検査成績によつて証明しますが斯業者にして此邊の注意を欠き徒らに其成績の不良を歎く者尠なからぬことと思ひます、此欠陥を免除せんことを努め之れが改善の途を立つるは則ち知恵の働きの一つ、一總の美一個の醜は忽ち工場消長に關係することばは多言を俟たぬことである、

之れを要するに製絲は指頭の妙用知恵の運用によりて支配せらるよ

こと至大なるものである、之れが整理を爲す者も亦茲に注意を要することと思ふ

作物を栽培し良き實を結ばせんには肥料を忘れてはならぬ之れと同様に其生産する生絲の價値を大ならしめんには色の要素がある、私はこの要素を生絲の三良と稱へて彼の肥料の三要素と對せしめ敢て當業者の考慮を俟つものである

一、技術上の良絲

之れに關しては別に私が喋々する必要はないが生絲の色澤に於ても趣味、織度についても強力、仲度、整理何れの点よりするも何等批難することの出來得ぬ様に立派に造り出したる物、所謂品評會に出品して入選の榮を得た生絲は色澤佳良にして織度均整抱合の緊看せる類節の寡少強靱性に富みたるが如く其品質は他に超越して甚だ優れてゐるものである、之れが生絲の最優品ではないかと思つた、之れが技術上の良絲である、

二、經濟上の良絲

經濟的思想に乏しく經濟的行爲の不足なるは我國民の一大通弊ではあるまいか、如何に優秀なる生絲を製産せるも、それが收支相償はざるものであつたならば、その製絲家は遂に落込むと云ふことは論を俟たない所であつて當業者の深く注意すべきことであると思ふ、

製絲家は原繭水質の良否器械設備の完否又は工女技術の巧拙に依り優劣の差等を生ずるは勿論であるが其成品の販賣價格は其勞費を償つて殘餘あらしむべきものである、斯の如き生絲は普通商事に供用することが出来る然しながら往々技術を凝らし精美なる生絲を得たとしても其勞費に酬ゆる所なくんば所謂技術上の良絲か又は美術的良絲に止まり一般の販路に適せぬのである、今回品評會出品中に玉絲があつた、丁度單繭から繰出した様に色澤と云ひ趣味と云ひ織度強力の工合何れも優れてゐたのである、唯憾らくは此玉絲は經濟上の敗殘者ではあるまいかと思像したのである、勿論技術上から論じたならば、たしかに良絲であるに相違ない、一方より之れを見れば賞するに餘りあるものであることは確かである、けれども此の玉絲製造に際して要したる幾多の勞費は果して之れを賣出した價格を以て相償ふことが出来るか又此様な優等技術を有する工女は容易に求め得らるや、そ

れが疑問である、收支相償はざるものは其成品は假令善良にあつても商取引に供すべき良生絲とは云へぬのである。

三、貿易上の良絲

已にべたる如く生絲は之れを商品となす目的を以て製造せねばならぬ、亦利益を獲べき方針を以て之れを製造せねばならぬ、斯くして收支相償ふものは經濟上の良絲であるが是等は或は京都に福井に金澤に取引し得るのみならず、遠き亞米利加や歐羅巴の需要に對し供給し得るのである、然るに輸出向生絲は地遣用生絲とは大に其趣きを異にするものがある、今日に於ても亦將來に於ても製造の發展を待つべきは貿易的生絲である

夫れ貿易的生絲は國家富強の命脈を繋ぎつゝある重要な國產物である、斯如本邦貿易の主腦品は生絲である以上は之をして貿易に適すべく製造するは當然である、貿易的良絲とは經濟上に確實せる技術的良絲の純齊多良なるものである、之を言ひ換ふれば精巧なる生絲を多量に製出し常に先約束を以て取引きを爲すことを得べき信用を享受したものがそれである

夫れ貿易的生絲は一定の價格を持てゐる、此價格は數回の取引を経て定められたるものである、例へば今回取引すべき生絲は前回取引したるものに比較して優良の出來榮であるからして價格の進むものではない、又價格の上るものでもない今此前後二回の取引中相場に變動なかりしものとせば、前回の生絲が千三百圓を値したとせば第二回の分は千三百圓を上ることは出來ない、故に貿易的生絲の價格は已に取り引したるものと成績を平均したるものでないこと知らねばならぬ、つまり其價格は其不出來の成績を捉へて定めたのである、今假りに取引すべき生絲千斤中五百斤は特に優れてあつても矢張り劣れる方の五百斤に依りて値打ちされるのである、今此優れたる五百斤を取除き其劣れる方のもの千斤を揃へても矢張り同値段である、故に貿易的生絲は優良でなければならぬと云ふ事は勿論であるが其最も切實に必要なは劣等なる側の品質を昂進せしむることであります則ち工女は其優等なる者を歓迎するは勿論であるが寧ろ劣等工女の技工をして急速に進達せしむる方針を取るは大に必要である、品評會出品の生絲は其優劣を平均して等級が定まつたのであるが貿易的生絲は此点に於て著しく違つ

彼の日露の大海戦に當り敵軍の敗北をなしたるは彼の艦隊中に速力の遅い戦闘力の乏しかつた一艦船を伴つた結果遂に此者が足手纏ひとなつた事の事である當業者は此点に深く意を注がねばならぬ
汝の作り出した不出來の生絲は汝の手になつた生絲全部の價値に影響を與へ延いては汝の經營する工女の浮沈に關することを覺悟せねばならぬ

從來歐洲各國にては正量を根基として生絲賣買を行ふて居るけれども現今横濱市場に行はるる取引は特定正量にして其含有せる水分の多量なる場合は賠償をなすべきことに定められてある、故に徒らに水分を加へ取引量の多きを望むが如きは大きな過ちである、又同時に著しく生絲の乾燥を施すも亦其策の得たるものでない其適當なる乾燥状態は一割一步七八厘の水分を含ましむるのである、則ち生絲の正量をして其原量の九割八歩に當る様に生絲の乾燥をなす事が最も經濟に適すると思ふ、斯の如き状態に於て整理されたるものが即ち貿易的良絲である

現行横濱止量取引法は一時的にして早晚歐洲に行はれつゝある正量取引に倣はねばならぬ、之は今を去る十七八年前の懸案である又其當時の約束であつたど時機を待ちつゝあるのである、生絲の取引に關しては水分の多寡相通じて取引量を一定し所謂正量取引法に據るの策を講ずべく當業者の努力を切に俟つものである、

福井、石川兩縣にあつては生絲量目檢定所の設けありて其受渡量を檢定し之れに依りて圓滿なる取引をなしつゝあるは人の能く了知するところである、然しながら往々生絲貿易市場たる横濱に此種の設備なきは異様に感ずる方もある様である又此種の設備あるを知らぬ者もある様に思はれる、我生絲檢査所にては彼の量目檢定に等しきことも原量檢定に依りて取扱つて居ることを忘れてはならぬ

由來我國民は舊慣に捉はれ之れを固守するの癖があるのであるまいか我生絲檢査所は生絲貿易の機關であると同時に技術改良の機關である以上は飽くまで諸君の利用に任せたいのである、益なき事とは思ひますが生絲檢査所の作業一斑を略説したいと思ひます同所内にては生絲の切斷又は類節の多寡、織度の適否強伸力の多寡に就て又は生絲の

量目と風袋との關係、水分含有の多寡練減の多寡に就て檢査をなしつゝある向外に工場用水の分拆の依頼に應じ其他生絲束裝に對する批評を試むる等の設備がある之等は更に貿易生絲製造業者の利用の爲其請求を俟つて居るのである、生絲檢査所は貿易的生絲業者の多く益々利用の範圍を擴大されんことを切望するのである。

時局の上より見たる蠶絲業

大日本蠶絲會技師 加藤 知正氏

今回大日本蠶絲會徳島支會品評會褒賞授與式を舉行せらるるを機とし、今明兩日蠶業講話會を開かるゝに當りまして、不肖の私も此演壇を汚し諸君の御清聴を煩すことになりました、處が元來私は蠶絲業に就て學識経験のある者ではございませんから到底御役に立つやうな御話は申し上げられません、其點は悪しからず御含みの上暫時御辛棒あらんことを切望いたします。

諸君、頃近我蠶絲業界は非常の好況を呈して居りますが、何故に此如く好況を呈してをるでございませう、之は言ふ迄もなく横濱市場に於ける生絲が高い相場を以て取引せられつゝあるからであります、果して然らば絲價は何故に如此く好況を呈して居るでございませうか、此絲價好況の原因は尠くも三つ四つあることと存じます、今私は此原因に就て御話申上げることの必ずしも無用の贅辯ならざるを信するが故に先づ以て之から夫れを御話し申上げませう。

第一の原因は米國經濟界の好況に在ることと存じます、諸君御承知の如く米國は此二三年來農作物が能く稔りまして鼓腹擊壤の民どもも申ませうか、何れも其懐合の裕かなるに嬉々として口を送つて居りますが、歐洲戰爭開始以來と云ふものは各交戰國へ軍用品其他の供給を爲し、之に依りて得たる利益は非常なものであつて此戰時の影響を受けたる米國の海外貿易は實に空前の盛況を告げて居るのであります、されば本年の如きは恐らく輸出超過何十億圓と云ふ巨額を算するでございませう、米大陸には黄金の波が打ち寄せつゝあると云ふを申しませんが、眞に其通りであらうと吾々は想像して居るのであります、之を以て米國人の一般は上下を通じて贅澤となり其結果斯様に絹織物が盛に消費せらるゝやうになつたのでございませう、御承知の如く米國に於け

る機業地はニュージャージーが最も盛んで、之に次ぐのがペンシルバニア州であります。ニュージャージー「コンネクチカット」「マサチューセツツ」「ロードアイランド」等の諸州も亦機業地として知られ、是等の機業地に於て一ヶ年に消費する生絲の量は今より十餘年前迄は千六百万パウンドであつたのが、今日では三千万パウンドを算するに至りました。而して其消費生絲の七割は我國より輸入する生絲でございますから、米國機業の消費は直に以て本邦生絲の上に重大の關係を及ぼすものありと云はねばなりません。然るに米國が一般經濟界の順調から延いて絹織物の流行を促し、十有八万の機台が晝夜運轉しても尙ほ不足を感ずると云ふ盛況を呈して居ると云ふことは實に空前の現象でありまして、此空前の現象が直に以て我蠶絲業界へ稀有の好況を齎らした譯でございます。夫れから

第二の原因とも稱すべきは歐洲戦争は絹織物が盛に消費せらるゝと云ふことでもあります。戦争に絹織物がどうして消費せらるゝか一寸合點が行かぬやうに思はれますが、段々聞いて見ると成程と首肯せらるゝ彼のバラシユットと云ふ偵察用風船を造る爲に使用せらるゝ羽二重の量も尠からずであるが、又砲彈や光弾に消費せらるゝ量も頗る多いと云ふことでもあります。此春獨逸軍がヴェルデンの大攻撃を致しました際に砲彈口のみ消費したる羽二重が五百万匹であつたと云ふことでございます。ヴェルデンの一戦に於てさへ五百万匹の羽二重を消費するといふからには開戦以來今日迄に消費したる羽二重の量は幾何の多きを算するか判らぬことでございますが、英佛其他の交戦國が絹織物を戰時禁制品といたしましたのは實に奢侈品と云ふ計りでなく、戦争に澤山用せらるゝといふ關係も大にあることと存じます。兎に角此戦争に消費せらるゝといふことなども米國機業界の繁榮と相俟つて絲價の高騰を促した一因やと考へて居ります。次で

第三の原因とも云ふべきは西歐及中央亞細亞の蠶絲生産額減少と云ふことでございます。伊太利佛蘭西土耳其半島高加索地方等の各蠶業地は今度の大戰に依て戦亂の巻と化した結果頗る其生産額を減じたのでございます。素より是等の各蠶業地は其生産の量多からざるも、需要が増加すると反對に供給の數量を減じたのであります。さら之れも矢張絲價昂騰の一因たるを失はぬと存じます。其次に

第四の原因とも云ふべきは銀塊の暴騰と云ふことでもあります。御承知の如く我國は金貨國であるが、支那は銀貨國であります。世界の一大蠶絲國たる支那の生絲の市場に顯はるゝ量の多少は直に絲價の上及びぼすのでございますが、開戦以來銀塊が切りに暴騰した結果生絲の輸出に頗る困難を感ずることになりました。爲に其取引が圓滑に行はれません。然るに我國は之と反對に金貨國でありますから、生絲貿易は極めて順調に経過して居るのでございます。之等も矢張絲價昂騰の一因を爲して居ると私は考へて居ります。

さて如此き原因に依りて生絲相場は今日の好況を持續して居るものといはれますれば、將來此絲價は永く繼續するであらうか、どうであらうと御心配なさる方が多からうと存じます。否實際に心配して居る人が世間には多いのでございます。夫れは如何にも尤ももので私が此間熊本縣へ参りまして紫藤生絲検査所長や、井原代議士や、町田本會學藝委員の方々と同縣の數ヶ所に於て巡回講話をいたしました際に、或郡長さんの言はれますには、私の縣でも大に此蠶絲業を奨励せられまじし私共も亦大に奨励をせやうと存じます。併し乍ら奨励はしたが却忽ち植えた桑を片端から引き抜かねばならぬと云ふやうなことで居て其奨励が害になるやうなものであるから如何したものか考へて居るのであるがドーです中央から御出になつたアナタ方が這々三年や五年は大丈夫絲價は下落せぬと云ふ保證をして下さる譯に行くまいか此保證をして下さるならば極力奨励をして見ても宜しいと思ふがドーかと問ひ詰められたのでございます。此郡長さんの言はるゝも如何にも尤もな事であると思へますが、併し乍ら神ならぬ吾々が三年や五年先の絲價の保證の出來やう道理はない、恐らく天下廣しと雖も此保證の出來る人は只の一人もありません。歐洲戦争の突發した當時中外商業新報社で此戦争がイツ濟むか當て、御覽なさい、といつて各名士の意見を求めたことがあります。其時歴々たる大家がナニ此戦争は長くて一年短かければ二ヶ月か三ヶ月で濟むといふやうなことをいつて預言者の夫れのやうなことをいつて皆相當の説を立てたものであります。處が如何でござる此二ヶ月か三ヶ月長くて一年と云ふ各名士の意見は外れも外れた美ん事外れて今日で既に三年であるが而かも此末イツ止むか判らぬやうな仕末ではあるのでございます。斯うなつてみ

るご、名士の意見も餘り當てになりません、當てにならないのがまた本當であります、されば吾々共が如何に中央に居りまして此絲價が三年も五年も今日の相場を維持して居るかドーか云ふことの判らう道理はない、従つてナンボ郡長さんの仰せでも左様ならば保證を與へませうとは答へられない、夫れでは態々中央から來て貰つた詮はないご御叱りを受くるかも知れないが、ナンボ叱られても保證の出來ないものは出來ないんであるから止むを得ない！斯ういつて仕舞つては夫れ迄であるが、吾輩は其時斯う答へた、左様神佛にあらざる限りは確定的な預言は到底出來ないが、併し世の中には八卦(卜者)といふものもあるから一つ八卦を置いてみませう、當るも八卦當らぬも八卦、當らぬといつて小言をいつて貰つてはならぬが、先づ私の卦に顯はれた處からいひますと、此戦争は容易に濟みません、此先き一年や二年は濟むまいと思ふ、さて戦争が濟まぬとすれば其間絲價の千圓以下に降るやうなことは先づなからうと思はるゝソコで戦争が濟んだらドーか云ふに、戦争が濟んだ當時は一寸絲價の暴落を見るやうなことがあるかも知れない、知れないが又再び騰貴して我蠶絲業界を賑はすであらうご考へるのであります、斯様に考へて諸君が將來に於ける蠶絲業經營の方法を立つて下さるならば先づ誤りなきに近からんと考へるのでございますが、諸君の御意見は如何でございますか？と申し上げましても之れ丈ではドー將來の方針を立て宜しいか更に判らんと仰せらるゝでございますから、私は私の忌憚なき意見を申し上げて御參考に供へておきたいと存します。

ンなら私の忌憚なき意見とは何かと云ふに曰く、將來の事は如何様に變化するか判らぬに依つて既往に於ける絲價の最低價格繭價の最低價格を標準と致して製絲なり養蠶なりの經營をせなければイケぬと云ふのであります、イツでも絲は高からう繭は安くあるまいといふ考へて高い時の相場計りを頭の中に置いて蠶絲業の經營をせられたならば必ず失敗します、否失敗することが多からうと存じます、ぢやに依つて生絲は八百圓前後繭は四圓内外！斯う標準相場をキチンと頭の中に定めて置いて遣つて下されたならば八百圓以下に下るやうなことが四圓以下に降るやうなことは減多矢鱈にあるものではございませんから損失を招くやうなことはソ一度々あるものではありません、斯くて若

しも其時の相場が現在のやうに千圓以上も致しますれば夫れが即ち悉く吾が利益になつて來ますから多きを貪らざる高きを希はず之に依て損失をへせなければ先づ上等と心得、農家の副業は副業らしく經營せられんとを望むのでございます、勿論歐洲戰亂突發の當時は八百圓以下七百圓にもなり、更に七百圓以下にも下落して夫れでも買人がないご云ふ騒ぎ、秋蠶繭の如きも三圓ちやの二圓ちやのといつて捨賣りにしても引き受けてのないのに當惑した養蠶家も尠からずあつたやうであるが、併し如此は空前にして又絶後の現象とでも申しませうか全く例外的出來事であるから之を以て將來の絲價や繭價を律する譯に行きません、故に私は斯かる例外的相場を取らずに常時に於ける絲價繭價の稍平均した最低相場を取標準とし御經營あらんことを御勧めする次第であります、尙茲に御注意迄に申上げておきたいのは絲相場繭相場と斯う二つ並べて申しますと、何となく話が製絲と養蠶の二途に跨がるやうになりますけれど、私の主たる御話の目的は養蠶に在ることと御承知ありたいのであります。

以上私は養蠶を農家の副業として經營する以上は最低相場を標準として御經營なさいと申上げましたが、併しナンボ農家の副業でも利益のより大なることを希ふのは人情の常、また然かあるべき筈のものでございますから、同じい仕事をすることも少しも利益の多いやうに遣らぬのは虚であります、一錢よりは二錢一圓よりは二圓と利益の多いやうにご計劃して行くのが本當の遣方であります、如此きは私が今更賢しこさうに申上げないでも諸君は百も二百も御承知のことです、今敢て私が之を申上ぐるのは、先づ第一に種類問題に就て卑見の存する處を申上げた爲めなのでございます。

今や種類問題は我蠶業界の大問題として何人も之を口にせざれば養蠶家たる資格もなければ蠶種家たるの資格もなく將亦製絲家たるの資格もないやうな有様であります、何故に斯う種類問題が喧しくなつたのでございませう、夫れは言ふ迄もなく在來の種類では同じい資本を掛け勞力を投じ乍ら其報酬が尠い、即ち利益が尠いといふ處から、之れ以上の優良種を見出さなければならん、見出さなければ個人としても又國家としても非常の不利益であるご云ふとが根柢となつて此如く種類問題が喧しくなつて來たのであります、處が此喧しい問題がド

ウ解決されたか若し未だ解決されてないとするれば現在の趨勢はドウな
 つて居るか云ふとを御参考迄に御話し申上げて置きたいと思ひます
 諸君御承知の如く種類問題の喧しくなつたのは歐米の顧客から本邦
 絲に對し種々批難のあつたのが動機になつて居ります、素より此批難
 と云ふのは今始めてではなくして、抑々生絲貿易開始以來絶へずあ
 るものと云つても良い位であります、就中四五年前に於て日本の生
 絲は雜駁である云ふ批難を受けたのでございます、之が爲に種類は
 統一せなければならぬ、統一せなければ日本の蠶絲業は遂に滅びて仕
 舞ふ云ふやうな極端な議論をさへ吐く者が顯はれて之が大問題とな
 る、處が氣候風土其他の關係に依て實際に其統一が出来ない計りでは
 なく、縱令統一が出来ないにしても統一すべき優良の種類がない、其種
 類を見出すして統一するのは却て本邦生絲の將來を誤るものである
 と云ふ議論が生れ、ツイ／＼騒いで居る内に外國種交配種といふやう
 なものがイツとはなしに問題になり、統一／＼と騒いで居る内に氣早
 の連中はドン／＼之を飼育し始めたので蠶の種類は多々益々雜駁なら
 んとするの趨勢になつて居るのが今日の現況であります、此現況は國
 家の蠶業政策上から見ても、良いことか悪いことかといへば、決して悪い
 ことではない、優良の種類を得やうとすれば勢ひ斯うならなければな
 らない、斯う違つて騒いで居る間に眞の優良種が発見せらるゝこと
 存じます、併し其優良種の見出しはイツのことであるか判らぬことであ
 るが、中央の蠶業試験場を始め、各府縣の原蠶種製造所等に於て熱心
 に之が試験研究をせられて居ることであるから遠からず理想的の優良
 種が発見せらるゝてありませう、けれども夫れは夫れとして置いて現
 在問題になつて居る白繭種と黄繭種の關係に就て御話を申上げませう
 諸君、白繭種とは云ふ迄もなく繭色の白い種類を云ひ、黄繭種とは
 之と反對に繭色の黄いものを云ふのであります、而して白繭の種類も
 幾百種の多きを算し、黄繭の種類亦其通りであります、扱て此黄白
 何れが良いかと云ふとに就ては大分議論があるやうでございます、白
 繭を好む人に言はせませうと、ソレ白繭を悪い悪いといはしやんす
 な、色の白いは七難かくすと云ふではないかなど、洒落れる、處が黄繭
 論者に言はせませうと、銀より金の方が尊いであらう、吾々日本人でさへ

黄色ではないか、黄色人種の吾々の飼育するのだから、黄繭種ならざ
 るべからずだ、白色人種の伊佛の當業者すら黄繭種を飼育するのに況
 して黄色人種の吾々がなぞ、理窟を捏ね廻す、斯うなつて見ると、何
 れにも相當の理窟があつて白粉つけた美人も好し、ビカ／＼光る山吹
 色の金も好んで何れにも團扇を挙げ兼ねる、ツマリ兩肌拔ぎたくなる
 のであります……と云ふやうなことを云つて居てはイツ迄で立つても
 議論が乾かないに依て這々一番勇氣を鼓舞して勝敗の決を取ることに
 致しませう。

世間の人は繭色の如何を喧しく言ひますけれども、色の如何よりは
 絲質の如何に在ることでございます、之に依て兩者の優劣を比較せ
 なければならぬのでございます、果して然らば白繭種と黄繭種とは其
 絲質に於てドレ丈けの相違があるか、其優劣があるかと云ふに、先刻
 も申しました如く、白繭黄繭共に其種類が頗る多く、其多い種類の中
 には絲質の良いものもあり、悪いものもあつて其比較が容易でない、
 否之を比較せやうとするのが寧ろ無理かも知れないと思はれますが、
 兎に角白繭種中の最も良いと云はるゝもの、黄繭種中の最も良いと
 云はるゝものを擧げて比較をして見ますと、現在の處では黄繭種の方
 が遙に白繭種よりも宜しい、到底白繭種は黄繭種の右に出る事が出
 来ないのであります、即ち煮繭時間は比較的長い、解舒が良好であ
 るから繰絲時間が短い、絲量が多くて屑絲が少い、夫れから生絲にし
 たものは色澤抱合共に佳良であつて趣味に富み類節が少くて強力伸度
 共に優良である、只其缺點とする處は、動もすれば縞斑を生じ練減量
 の多いと云ふことであるが、要するに一長一短は黄繭白繭共に之を免
 るゝことが出来ないが、縱令其短所はあるにしても黄繭の長所は白
 繭の長所に比し遙に勝つて居ると云ふことを斷言するに憚らるのであ
 ります、併し乍ら茲に考ふべきは販路の關係であります、現在日本生
 絲の輸出額四十万捆を算する中僅に二万捆内外の間は未だ其販路に困
 るやうなことはないが、將來黄繭絲が多々益々生産せらるゝ
 やうなことになるかと或は現在のやうな譯に行かぬかも知れない、
 之に就て諸君の御参考迄に御話を致しておきたいことがあるのであり
 ます、夫れは山梨縣の某郡にあつた事柄であります、昨春某郡の郡
 長と技術員と協議の結果大に黄繭種を郡内の養蠶家に飼育せしめたの

であります、然るに愈々繭の出来秋頃になると東海道筋に良からぬ評判が立つた、其評判云ふのは黄繭は白繭よりも其相場が安いといふのであつて甚だしきは賣人はあつても買人がないといふ極端な風評迄を盛んに飼育した此郡の當業者に一大驚愕を與へ、夫れと同時に當業者が「ギャク」騒ぎ出したのであります、郡長も郡長だが巡回教師も教師だ、斯ういふ流行物を吾々に勧めて易ならざる損をせしむるは大に其責任を問はずんばあるべからずと騒ぎ出したので三年立てば青くなるホーイといふことがあるが、流石の郡長さんも黄繭種を勧めた計りで一年立たぬ内に青くなつて仕舞つた、巡回教師も進退窮ち上るか知れんといふ始末になつたのであります、茲に於てか甲府の町へ出て製絲家に黄繭の引取方を交渉したが、アイタイ話はコチャ知らん顔と云ふ有様にて木で鼻かんだやうな挨拶、ソコデ止むを得ず其巡回教師と某君とが群馬縣の富岡なる原富岡製絲所へと駆け込んで其の次第を話して之れが救済を頼んだ、其時所長大久保君が宜しい御引き受けたいませう、數量は多い程結構取引価格は在來種よりも一割高にして實質の善いものは夫れ相當に高く買つて上げませうと答へたのであります、返答や如何にと大久保所長の唇のみを見て居た兩氏は此挨拶を聞きなり飛び立つ計りに喜んで早速其旨を郡長へ打電した、今が今迄どうしやう斯うしやうと青息吐息で居た郡長さん此快報に接するなり俄に元氣づいてサー平民共幾らでも黄繭を持つて來い皆己れが引き受けて遣るぞ、マサカそんな事は言ひますまいが、兎に角非常に喜んで其事を黄繭飼育の當業者へ通知して出來た黄繭を相當の價格を以て悉く原富岡製絲所へ引き渡したのであります、當時大久保氏も私とは招かれて其郡へ行き或舞臺に於て黄繭に關する一場の御話をいたしましたのであります、要するに販路の關係が甘くついて居なかつた爲に斯かる騒ぎを惹き起したのであります、販路さへ確定して居りますればナンホ黄繭を飼育しても差支ないと思ひます、販路の目當てもなく徒に之を飼育する云ふことは頗る危険であります、故に之を飼育するには豫じめ製絲家と打合せて置いて作つた黄繭は皆其製絲家が引き受けると云ふやうにしてあれば洵に安全なと考へます、併し之も

初めの内丈けで繭絲其者の特徴が一般に認められ、製絲家が競ふて買るやうになれば養蠶家としては販路の上にはソコ心配せんでも恰も今日の白繭を飼育して更に販路の上には何等の心配のないのと同じことに成るであらうと存じます、けれども先刻も申しますやうに全國の養蠶家が競ふて之を飼育するやうになつたならば其結果は如何であらうか生産過剰となり到底今日の聲價を維持することは出來まい、否之を保持することになりはせまいかと氣遣つて居る人も少くないやうである、如何にも尤もの話であると思はれますが、茲に於てか黄繭飼育に制限論が起つて或人は現在の産額は白繭種と爲し、之より以上増加し行くものを黄繭種としたならば宜しからうと云ふ説を唱へ、或人は現在の産額及將來増加するものを七分三分に分けて其七分を白繭と爲し、三分を黄繭と爲す方が宜しからうと言ひ、又或者は開んなに制限をすする必要はない増加し行くものはドン／＼増加し、日本全土を擧げて黄化せしむるも敢て構はんではないか、若し一朝黄繭が悪いといふことになれば再び之を白繭にすることは何の面倒はない話であるといふ非常なる積極的意見を有する者もあるのでございます、是等の説はドレ丈の根柢がある譯ではなく唯其人の感想的推定に止まる云ふて宜しからうと思ふのでございます、で私共の意見としては良いものは縦令抑え止めても止まつて居るものではないから自然の發達に任せておく方がイ、黄繭果して可ならんには黄繭發達すべく白繭果して可からんには白繭發達するであらう、故に之を自然の趨勢に任せて適地に適種を奨励して行くのが一番宜しいと考へるのであります、只併し黄繭種でさへあれば何んでも良いと濫飼育を爲し、黄繭種でさへあれば何んでも構はぬと濫造を爲すことだけは大に相警めねばならぬことと信ずるのであります、歐洲戦争といふ吾々當業者に取りては千載一遇の好機會に於て歐羅巴の黄繭種に取つて代らうといふ此矢先に粗製濫造を爲して本邦黄繭種を傷けるやうなことがあつては夫れこそ一大事でありませう、吳々も注意を要することと信じます、此事は吾々のみの意見ではない少しく頭のある方は皆考へて居らるゝこととありますから當業者は一般に之を念頭に置き、養蠶家は種類の優良なるものを飼育し、製絲家は之が生絲製造を眞面目に遣るといふやうにせられな

十何通りあるといふではありませんか、之も今から一兩年前の話であるから今日では尚澤山になつて居るかも知れません、如此く同じ黄繭といふても既に雜駁になつて居る、此中には優良のものも不良のものもある、夫れこそ玉石混淆であるから大に之が整理を行ひ善いものは善いものとして之を統一して善い繭を澤山に取るやうにせねばならぬと思ふて居ります、勿論御當縣の如きは東海道筋の如きことはありまじまいが、併し今から其考へで御遣りにならねば後日に至つて整理統一せやうなごといふことは六ヶ敷話であるから、深く茲に御注意申上げておくのであります、又生絲の如きも中には藥品などを用ひて着色する者があるご云ふ話であります、此事は具体的に御話申上げたいと思ひますけれども、本日は時間に餘裕がないから之を略して置きますが、少し黄繭絲の調子が良いご直に斯様な悪いことをいたすのであります、之は日本人の通弊で洵に良くない遣り方ご云はねばなりませぬが、御互外國人相手の仕事は只目前の事のみを考へず未永永遠の事を考へて信用を重んじ伊佛の黄繭絲に比して勝るごも劣らぬ立派の品を造り出すやうに致したい、此点にさへ十二分の注意を拂ひて行かば本邦黄繭絲の將來は決して悲觀することはない、否大に樂觀して可なりであるご考へます、尙此事に就ては御話申上げたいことが澤山ありますけれども本日は之で御免を蒙ります。

黄繭問題に就て

京都高等蠶業學校助教授 藤岡秀次

自分は大正二年の春來縣せることあり、四年の後再び來つて現狀を見るに殆んど面目を一新したる感あり、即ち進歩の尺度ごも見るべき交配種繭が全体の三割以上に達せるが如き、製絲の方面には當時僅かに一二工場に行はれたる沈繰法が全工場に行はるゝに至りたるが如き是なり、沈繰繰絲法は山形縣より起り農商務省に於ても奨励しつゝあるが種々の事情によりて改め難く本元の山形縣すら未だ全体を改むるに至らざるにも拘はらず本縣に於て斯くの如き進歩は全國中唯一ごも見るべきものにして之を三四年以前に比すれば殆んど隔世の感あり、

之れ當局の指導宜しきを得たるご及び當業者の奮勵努力せるの結果にして誠に愉快に感じて現狀を視察したり、

以下述べんとする黄繭問題は其問題頗る廣汎なるが自分は暫らく製絲及び染織の上より黄繭に就て研究せんごす

諸君は染織等に關しては關係なきが如くなれご養蠶の結局は染めて織るご云ふ事になるのであるから決して關係なきにあらず

○黄繭問題の出發点及び歸着点

一言にして之を蔽せば從來の生絲の品位は不良なるを以て之を改良せんごとする目的の爲に起りたるものにして、其目的に副ふものを選定すれば足る、今日本邦絲の惡き一二例を述べんか

現今機業家は機械力によるご多し故に在來の如き品質不良の絲にては切斷其他故障ありて工程進まず用ゆるに堪へざるなり、今一面には吾人の趣味向上して高尚になり其色澤地質其他嗜好の程度昂くなれ

此兩方面よりするも生絲の品質を改善すること最も緊要なり

自分は一昨年京都高等工業學校萩原教授が織物狀況調査の爲米國に出張して持ち歸りたる各種の織物を見たり、其一つの縮緬を取りて之を支那絲或は日本絲を用ひたるものに比すれば我々織物に對する素人にも容易く其良否を判せらる第一地質柔かく手觸り「フワリ」ご感するも日本絲は之に反して紙を撫つるが如く味ひ乏し、又其「チャラ」の如きも伊佛絲を用ひたるものは縮みの大小齊ひて排列平かなり、日本絲は之に反して縮みは大小不同ありて織面の体裁宜しからず

今一例を擧げんが、畏れ多き話なるが、皇后陛下が親しく御養蠶遊されて得給へる絲に御見本を添へ織物調製方京都府西陣織物同業組合へ仰付かつたり、而して同組合には多數の機屋あるも命を奉じ得るもの無くて辭退したり。然るに京都高等工業學校校長中澤博士が或機會に此事を聞き甚だ残念のごに思ひて錦小路主事に御見本を請ひ得て試織に着手したり先づ普通日本絲を以て織り試みたるに御見本ご相距る遠し、乃ち生絲に就而種々考究し本邦中最も優良の稱ある、伊佛、伊勢、山形等より優等絲を取寄せ織り試みたるに地面は工合よく出來たるも品位は到底比すべくもあらざりし次で伊佛の生絲を取寄せ織り上げたるに正に御見本ご同一の品を得喜んで捧げたるに、陛下より有難き

御言葉を賜りたることは多數諸君は承知せらるゝならむ其後は黄石丸の絲を以て謹織しつゝあり

天爲絨に就て見るも在來絲を用ひたるものは外見差なき如くなるも試みに其毛を撫るときは臥あるまゝ起き直らざること恰も草原を大蛇の過ぎたる跡の如し然るに黄石丸の絲を用ひたるものは柔かにして其毛を撫つれば暫らくにして起も上り元の如く整然たるを見る

兎に角外國系の血の混つたるものは品質優良なるが故に機械の上にて優れたる結果を見るなり、然らば日本種は悉く不良なるかと云ふに優良のもの全く無きにあらず明治十年頃より以前のもので寺院等に存せる絨物に就て調査するに其質優良にて現時の交雜黄繭絲にて織りあるものに劣らざるものあり

是等は日本固有の青白種の絲を用ひたるものなり、現今の蠶絲業は産額の上より云へば著しき進歩なり然れども品質は往時に比し遜色あるあり此意味より云へば明治の蠶絲業は量の上に進歩し質の上に退歩せるものと云ふを得べし從て大正の御代に於ては質の改良を企圖せざるべからず

○蠶絲業の維新

只今述べたるが如く本邦、在來種中優良のもの無きにあらざるも實用種にあらず茲に諸君は黄繭種を飼育するに至れるものにして現今實に斯業の維新と稱するを得べし

養蠶は根なり織物は花なり、養蠶、製種、製絲の三業者は握手を要すと云へるは古くよりの問題なり今日は更に一步進みて養蠶業、製絲業、織物業者の提携にあらざれば完全に品種改良の目的を達成し難し乃ち斯業の範圍が廣くなりたり從來は品種及び繭の良否は製絲家によりて左右せられたり、然れども今日は織物の上より適否を考へて種類を選定し蠶を飼ふを要するに至れり、之れ養蠶、製絲、織物業者鼎立の要ある所以なり

○所謂優良種とは次の三つの條件を具備するを要す

- 一、養蠶上有利なること
- 一、製絲上有利なること
- 一、生絲は織物に適當なること
- 一、交配種の有利なる實例

養蠶經濟調査(交雜白を百として割合) 其ノ一

種別	對蠶量一匁收繭割合	對用桑百匁收繭割合	對延人員收繭割合
白繭種	一〇〇	一〇〇	一〇〇
黄繭種	一一六	一一五	一一九

同 (同) 其ノ二

種別	對蠶量一匁收繭割合	對用桑百匁收繭割合	對延人員收繭割合
白繭種	一〇〇	一〇〇	一〇〇
黄繭種	一〇一	九九	一〇六

農商務省に於て調査せるものより算出せり

製絲經濟調査(在來種を百として割合)

種別	綫糸量	生絲量	生産費
在來種	一〇〇	一〇〇	一〇〇
交雜白繭	一三〇	一一〇	八五
交雜黄繭	一一二	一一六	七三

本表は東海道筋多數製絲家の實際に就て調べたるものと學校に於て試験した結果とを綜合せるものにて大差無きものなりと信す固より土地の狀況により又年により調査する人の考へによりて多少の差あらむも少くも本表によりて不利ならざるを知るべし

○生絲の品位

種別	切斷類	節強	力伸度
白繭絲	五四	一六三	三五五
黄繭絲	三	一〇二	三六五

本表は生絲検査所の成績によるものにして切斷は生絲繰返二時間中の數、類節は五百米突に對し、強力及び伸度は一、デニールに對するものなり尙ほ白繭絲は在來種と交雜種との混合せるものと平均なり

既に交雜種は在來種に比し有利なるは以上によりて見るべきも更に織物上の關係を述べんに、生絲の品質中最も重要な弾性に富むこと之れなり、弾性は前に述べたる萩原教授が多年苦心研究したるものにして生絲の弾力換言すれば生絲の織物に必要な力と云ふべきものなり、今兩者を比較するに(黄繭絲を千としての割合)

黄 繭 糸 一、〇〇〇
 白 繭 糸 八三五
 猶ほ黄繭中の濃色なるものと黄繭中にて色の濃きものを取りて淡色なるものと比較研究せる成績を平均するときは

濃 色 一、〇〇〇
 淡 色 八四六

以上二事實によりても有色の優良なるを知るに足らんか

○黄繭糸に對する世評

黄繭を生ずる爲めに染め斑となり染色上困難なりとか白地の織物に使用するに不適當であるから賣先に固るとか様々の説を立てるものがあるが之れ等は多は無經驗者の想像説か然らずれば門外漢の染色論にして所謂食すギラヒの徒なり若し取引上色があるが故に安價なりと云ふが如きは奸商の駆引なり今日まで自分の耳にせる多數の噂は深い根據のあるものでないと思ふ、自分が京都にありて實驗した事や多數の西陣業者について取調べた處によりて判斷するも大抵根底の淺き議論なることを證するに足るのである

○染織上より見たる黄繭糸

一、先づ織物最初の工程たる燃絲工場について見るに黄繭糸の工場に出たときは工女は病をつとめて出勤し嬉々として業に従ひ白繭糸と口變りするときは欠勤し多少しくも工程に於て二割方進むと云ふ之れを以て見るも如何に黄繭糸が繰返し作業の容易なるかを察するに足らん

一、練減一の歩合は黄繭糸に於て確かに多きを見る議論は抜にして左に横濱及京都に於て黄白繭糸について精練したる成績を掲げん

横 濱	白 繭 糸	黄 繭 糸	差
京 都	一九、三%	二二、三%	三、〇%
	一九、八%	二二、三%	三、五%

即ち横濱と京都とにては多少の差あるも黄繭糸は白繭糸よりも約百分の三練減量多し之れを試みに繭代に換算して見ると仮りに繭十貫匁を六拾圓とすれば壹圓八拾錢の差となり黄繭と白繭とが同一の品質とすれば繭十貫匁多きそれ丈安價の譯なり

一、染色上研究的に染めて見た處では染め易くて染色上何等の不便なく且つ云ふが如き染め班を生せず又た多數の當業者について見るも黄白によりて取扱に區別なく染め上りには光澤強き丈黄繭糸に於て優れりと云ふ

一、織物作業上には御召、絹、紗、縮緬、縞子其他について調査したる處によれば絲が強くて伸びが多いので織るときに切斷少なく作業頗る便利なりとは異口同音に唱へて居る

○黄繭糸の特徴を發揮せる實例

一、薄地縮緬(精練したまものもの)

白 繭 糸 織	純 色	光 澤	手 觸	チ ャ ャ
黄 繭 糸 織	淡 黄	不 良	粗 鬆	大小不同配列不規則 細密ニシテ配列正

一、縞子、羽二重、紋織
 場面宜しく箴目密にして澤あり

一、帯地のカラミ絲

シユチンの帯の模様の上を押へるに用ゆるカラミ絲は筋が揃ふて居て最も強靱なるを必要とする従て従來伊豫の大洲の絲でなくてはならぬこととなり居れり然るに試みに黄繭糸を使用したるに其強さと云ひ力と云ひ伊豫絲よりも優りて適當なりしより今では殆んど全部黄繭糸を代用するに至り爲めに伊豫のカラミ絲ミ専門の製糸は全滅するに至れり

一、樂 器 絲

琴、三味線等の弦に黄繭糸を使用するときには従來の白繭糸に較べて音調頗る高く音律又整ふ

一、縫 絲

上等の絹織物縫用としては従來米澤絲を最良とし京都に於ける一流の呉服店等にては専ら之れを用ゐたるも黄繭糸を代用して良好の結果を得たり元來が縫針は縫絲より太きを以て針の通た孔を縫絲で充たすことは出来ない従て後で縫目にクルイを生ずる患がある然るに黄繭糸が前已に述べた様に彈性に富み膨脹力を有て居るから絲が膨れて針孔を埋めることとなる猶ほ連針半ばにシゴイタとき片寄ら

す平にノベル特徴がある

一、紙漉黄絲

紙を漉く質を編む絲は在來馬毛又は生絲を用ゐたるが黄色生絲を以て試みるに水に入りてクルイを生せず且つ耐久力に富むを以て大に賞用せらるゝに至り高知市の製造本場にては黄繭絲を専用することなれり

一、藝者の座敷着

場所柄引例の穩當ならざる感あるも自分は初め斯う考へて居た彼等の座敷着は終始用て居るのであるから少々質は悪くも外見を良くする爲めに度々新らしきものに取換へる方宜しい丁度役者の衣裳に人造絹絲を用ゐると同じであらうと然るに實際は之れと異り最も質の良い丈夫なものを採用して居るのであるそれは一つの座敷を勤めるに絶へず起たり居たりするが爲め膝や其他に皺を生じヌツが切れたりするから次の座敷へ着て出るには一旦疊んで皺を伸ばし折目を正さなくてはならぬ處で黄繭絲は此場合其特徴を發揮する即ち例を縮緬に採らんか黄繭絲で織たものは雖の直り方が白繭絲で織たものに比して遙かに速やかである、白繭絲で織たものは皺の直るのに數時間を要するにも拘はらず黄繭絲のものは數十分間で皺が消失する従て次の座敷へ侍する間に逢ふそのみならず質が強いので長く着ることは出来る之れが前に話した様な黄繭絲の弾力が強きによる一、此外絹綿交織の織物に用ゐて光澤がよいのと膨脹力に富んで居る点よりして少數の絲を用ゐて多數に使用したと同じ價値に見せることが出来る

○黄繭絲の欠点

一、練減多きこと 前已に述べたるが如し
一、色を有すること 之れは精練したる上或る藥品を用ゐて漂白すれば白繭絲と少しも變ることなく寧ろ光澤良き丈優りて居るが漂白する爲め手數と藥品代を要することは免れざる處である
併し今日の處黄繭絲を強ふて漂白して使用に要があるであらうか吾人が日用の絹織物中で純白なものを何程要するか恐らくは全体の百分の一にも達せざらべく他の大部分は皆な何れの色にか染めて用ゐる従つて其割合に白繭絲を生産し大部分は染めて用ゐるに適當なる黄

繭絲として佳なりとせずや此く説明し來れば最早色の黄白は問題にあらず只だ欠点!!短所とするべきものは練減の多き一事なり故に養蠶家諸君は此練減の多き丈繭を安く生産する考へを持つを要す
以上反覆説述せる如く黄繭絲は養蠶上製絲上有利であるのみならず染物にも絹物にも適當であるから長所は僅かの欠点を補ふて餘裕綽々たるものあり黄繭種を擇び黄繭を産しなくてはならぬ
尙ほ風説をなすものは日本には從來白繭糸を生じて居たのであるから黄繭絲を多く産する様にならば賣却に困難せんと然り急劇に多量に生産せば或は一時販路の充塞することなきにしもあらざるべきも之れが消費状況を調査するに米國に於て今より約二十年前にありては黄、白絲の消費割合は相半ばせるに現今にありては黄絲三分白繭七分となれり之れ白絲を輸出せる日本の生産額増加の爲めなり假りに米國にて消費する生絲を従前の如く黄白半々に達せしめんとすれば尙ほ幾十倍を産せざるへからず最近一ケ年に横濱より輸出せる生絲は約三十六万捆にして此内黄繭絲は僅々二万一千捆にすぎず之れこそ満白絲中黄一点と云ふべきか黄繭絲の前途洋々春海の如きものあらん
最後に一言付け加へておかねばならぬことあり
以上述べたる處は黄繭絲の品質優良製絲上染織上好適せるものなりと云ふのであつて繭や生絲の賣買の取引上には諸種の事情あり従て價格の如何等は別に考へなくてはならぬ誤解なからんことを望む
(終り)

徳島新聞社
徳島市大工町百壹番地ノ参
電話二六六番
大正六年九月廿八日印刷
大正六年十月一日發行

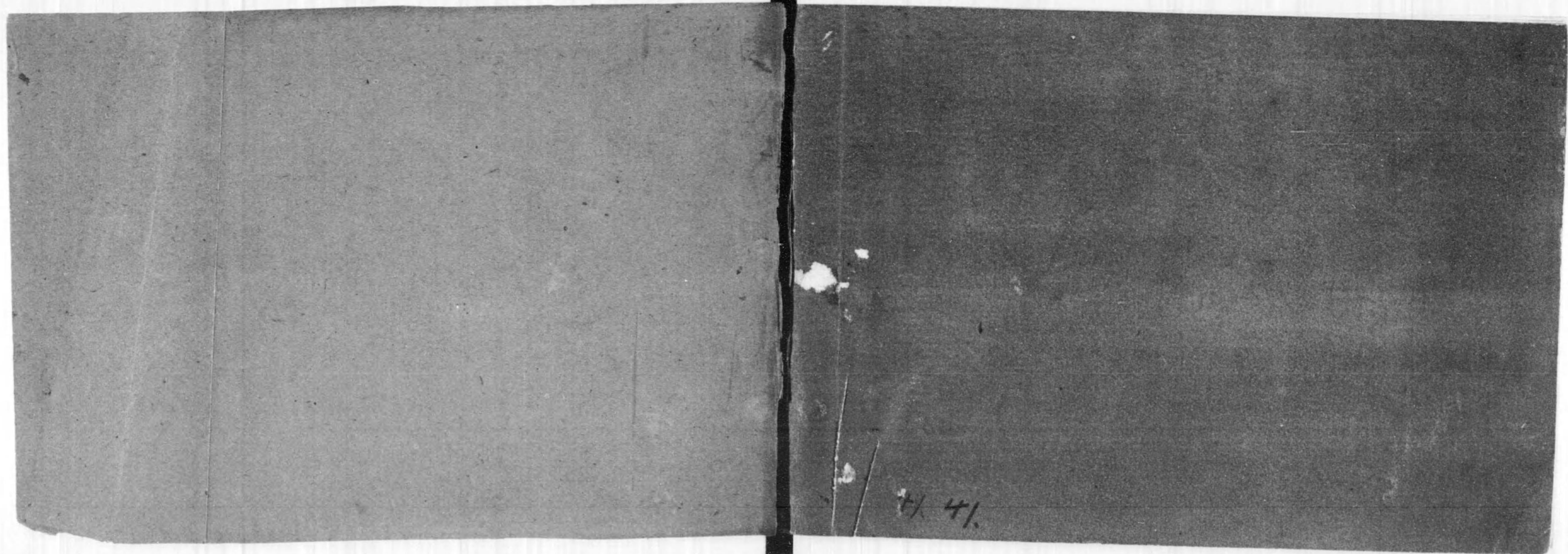
大正六年九月廿八日印刷
大正六年十月一日發行

發行所 徳島縣廳内
大日本蠶絲會徳島支會

發行兼編輯人 赤澤豊
徳島市寺島町稻田跡三十二番地

印刷人 奥山文平
徳島市大工町字大工町百壹番地ノ参

印刷所 奥山印刷所
徳島市大工町字大工町百壹番地ノ参



327
10/17

終